索引篇

凡例

一、この索引は東山御文庫本『うたゝね』に用いられている語句の五十音順索引である。

二、校本に用いた尊経閣文庫本・松平文庫本・扶桑拾葉集本・群書類従本の本文、および、底本の傍書等によって勘案した語句も掲げた。この場合は文例において底本と異なる個所に＊印を付して区別した。

三、複合語・連語・慣用句など、なるべくそのままの形で掲げることに努めた一方、語の下位部分（造語成分や接辞）からも検索できるように心がけた。

四、見出しは歴史的かなづかいに拠ったが、文例はすべて底本のかなづかいのままとした。両者の間に配列上隔たりの大きい場合には参照見出しを立てた。

五、見出しには必要に応じて該当漢字を（　）内に示し、文法的説明を〔　〕内に施した。略号の主なものは次の通りである。

連＝連語　四・上一・上二・下二・ラ変・サ変・カ変など＝動詞の活用の種類　形＝形容詞　形動＝形容動詞　副＝副詞　連体＝連体詞　接＝接続詞　感＝感動詞　助動＝助動詞　助＝助詞〔格助・係助・副助・接助・終助・間投助に区分〕

名詞のみの用法には品詞名を省略した。また、いわゆる形容動詞の連用形で副詞的用法のみの文例しか無いものは副詞と扱った。

六、活用のある語は、活用語尾を「・」で区切ってそれぞれの活用形をそのまま見出しとしたが、用例の多い場合はまとめて、未然形・連用形〔動詞はこれ先出〕・終止形〔動詞・形容詞以外はこれ先出〕・連体形〔形容詞はこれ先出〕・已然形・命令形の順に配することを原則とした。また、居体言・複合語の造語成分・派生語などの統合をはかった。一部の助動詞のように活用形によって著しく語形の異なるものは別掲して参照に努めた。

七、いわゆる形容動詞や一部の副詞は、助動詞「なり」や助詞「と」「に」などからも検索できるよう参照に努めた。すべて参照は二例以上ある場合を原則とし、一例のみのものはそのまま文例を示した。

八、同音、同形のものの配列は、体言・用言・その他の自立語・付属語・その他（接辞・造語成分等）の順とした。同一項目中の文例の配列は本文の順を原則とするが、用例多い場合は類によってまとめた。

九、一行以内の文例を掲げることを原則とし、見出し関連部分を太字で示した。また、場合によっては配列上の関連部分に圏点を付した。文例の文字づかいは底本のままとしたが、＊印を付して異文を採った場合もある。〔↓二〕

一〇、所在は、丁数を漢数字、行数を算用数字で示した。オは表、ウは裏の意である。

一一、文例には、話・歌・文のしるしを付して参考に供した。その内容規定は次の通りである。

話＝会話文中の用語をさす。いわゆる内語（思惟）をも含めるが、全体的に思惟的部分の多い文章なので、引用の「と」で承けて地の文との区別の明瞭なものに限った。

歌＝和歌中の用語をさす。引用句のそれ（古歌・古文をそのまま引用していると思われるもの）をも含める。

文＝消息文中の用語をさす。かりに経文をも含める。

一二、見出し語について『源氏物語』の用語であるかどうかを＜　＞内に示して参考に供した。源氏に見えないものは、現行の国語辞書等によって代表的出典名をあげたが、平安中期に用例の見出でないものは努めて日ポ辞書（またはロドリゲスの日本大文典）に当ってみた。＜訓点＞は『金光明最勝王経古点』等の訓点資料をさすほか、出典名は二字程度の略記に従った。

一三、末尾に「漢字索引」を付載した。呉音による配列を原則としたが、あまり一般的でないものは漢音に従った（松・鐘漢音ショウ呉音シュ、嘉漢音カ呉音ケ、柴漢音サイ呉音セ、送漢音ソウ呉音ス、暮漢音ボ呉音ムなど）。

以　上

この索引の体例は一部『竹取物語総索引』（山田忠雄編）に負っています。付記して謝意を表します。

（七五・八・一七）

語彙索引

あ

あか（閼伽）
よひあか月の**あか**をとたゝす　〈源氏〉一〇ウ5

あか・けれ（明）〔形〕
月もいみしく**あかけれ**は　〈源氏〉五オ5

あか・ず（飽）〔連〕
なにゝたとへても**あかす**かなしかりける　〈源氏〉二オ10

あかつき（暁）
あか月にもなりぬ　〈源氏〉四オ1
よひ**あか月**のあかをとたゝす　一〇ウ4

あが・ら（上）〔四〕
露はかりおきも**あかられす**　〈源氏〉一〇オ9

あき
秋にもなりぬ　一五オ1
秋のかせのうき身にしらるゝこゝろそうたてく　一ウ9
あれたる庭の**秋の露**　一オ6

あきかぜ（秋風）
ふるさとのにはもせにうきをしらせし**あきかせ**は　〈源氏〉一〇ウ9

あくが・れ（憧）〔下二〕
身をうき草に**あくかれし**心もこりはてぬるにや　〈源氏〉三オ5
いとせめて**あくかるゝ**心もよほすにや　二オ11

あくがれそ・め（憧初）〔下二〕
うつゝ心もあらす**あくかれそめにけれ**は　〈宇津保〉二オ5

あ・け（明・開）〔下二〕
やをらはしを**あけたれ**は　〈源氏〉七ウ3
かとを**あけて**いつるならひなりけれは　七ウ10
こよひしもとく**あけて**出ぬるをとすれは　七ウ11
れいのつまと**をしあけ**て　一オ5
をしあけかたならねと　三オ3
あり明の光もいと心ほそく　一五ウ10
あくるまゝにしほ〳〵とぬるゝほとになりぬ　八オ9
ともしひのかけはかりを友として**あくる**をまつも　一五オ5

あさ・から（浅）〔形〕
あはれ**あさからぬ**なかに　〈源氏〉六ウ2
たのむへきことはりも**あさからぬ**ひとしも　一五オ9
あはれも**あさからす**　三オ4

あさき（浅木）
〈千載〉

あさきのはしらかはらすは歌　二〇ウ4
あさぢふ（浅茅生）　〈源氏〉
露のいのちの庭の**あさちふ**歌　一四ウ11
あさま（浅―）
あさまのはしらかはらすは歌　二〇ウ4
あさま・し（浅）〔形〕　〈源氏〉
さも**あさましく**はかなかりける契りの程を詞　一オ10
おもへは**あさましく**よのつねならす　四ウ5
あさましげ・なる（浅）〔形動〕　〈源氏〉
あさましけなるしつのをとも　一七オ6
あさゆふ　〈源氏〉
さそふ水たにあらはと**朝夕**のこと草になりぬるを　一五オ7
あし（足）　〈源氏〉
あしのゆくにまかせてはや山ふかく入なんと　八ウ4
あし（葦）　〈源氏〉
はかなけなる**あし**はかりにてむすひをけるへたて…　一八ウ7
あしわけ（葦分）　〈散木〉
とにかくにさはりかちなる**あしわけ**にて歌　二オ5
あしわけぶね（葦分舟）　〈栄花〉
とにかくにさはりかちなる**あしわけ舟**にて歌　二オ5
あす（明日）　〈源氏〉
けふか**あす**かと心ほそきいのちなから詞　一四オ5
あそん（朝臣）　〈源氏〉
なりひらの**あそむ**のはる〳〵きぬとなけきけんも　一八オ9
あだ・なる（徒）〔形動〕　〈源氏〉
つき草の**あたなる**色を　一ウ5
よのつねならす**あたなる**身のゆくゑ　四ウ6
あたり（辺）　→わたり　〈源氏〉
そのあたりまてみち引たまひてんや詞　九ウ11
かの御**あたり**なりし　一四ウ2
あたりのくさもみなかれたるころなれはにや　一八オ7
あちきな・く〔形〕　〈源氏〉
…と**あちきなく**ものうし　二〇オ8
あつか・は（扱）〔四〕　〈源氏〉
さま〳〵に**たすけあつかはるゝ**ほと　一〇オ7
あつま・り（集）〔四〕　〈源氏〉
ゆきゝの人**あつまりて**舟をやすめすさしかへるほと　一七オ1
あと（跡）　〈源氏〉
そことたにしらすまよはん**あと**そかなしき歌　七ウ1
われよりはひさしかるへき**あと**なれと歌　三オ9
なみたをそふる**水くきのあと**歌　三ウ7
とりのあとのやうにかきつゝけておこせたるを　一九ウ8
みやことり**あとなき**なみにねをやなかまし歌　一七ウ6
あな〔感〕　〈源氏〉
あなむつかしとおほゆれと詞　六ウ6
これはなに人そ**あな**心う詞　九オ10
あないとおし〳〵とくりかへしいふ詞　九ウ4
あながち（強）〔副〕　〈平家・日ポ〉

あなかち思ひいてられて　五オ10
あは・せ（合）〔下二〕　〈源氏〉
あはれさもみつから**きこえあはせ**たくなとあれは図　四ウ3
あばらや（亭）　〈源氏〉
いとはなれまうき**あはらや**ののきならん語　三オ1
あはれ〔名・形動〕　〈源氏〉
空の**あはれ**にひころのをこたりをとりそへて　三オ9
あはれしるこゝろのほと　四ウ1
おり〳〵の**あはれ**しのひかたきふし〳〵を　六オ11
あはれあさからぬなかに　六ウ2
よのなさけをすてぬなけの**あはれ**はかりを　一ウ5
所から**あはれ**すくなからす　一四オ8
…と**あはれ**もあさからす　三三オ4
しのはぬ人は**あはれ**ともみし歌　三三オ10
あはれにかなしくてよろつをわすれて　一九ウ9
いとうれしくも**あはれに**もさま〳〵むねしつかならす　一三ウ1
そゝろにみるも**あわれなり**　三三オ2
ゆめのまへに**あはれなれ**と　一九ウ1
つれなきよの**あはれさ**もみつからきこえあはせたく図　四ウ3
あ・ひ（合）〔四〕　〈源氏〉
おそろしきまて**ののしりあひ**たり　一七オ3
さすかめも**あはす**みしろきふしたるに　五オ1
あふさかやま（逢坂山）　〈源氏〉
ほとなく**あふさか山**にもなりぬ　一六オ6
こえわふる**あふさかやま**のやまみつは歌　一六オ8
あふみ（近江・淡海）　〈源氏〉
あふみのくにのちといふところより　一六オ10
とをつあふみとかやきくもはるけき道をわけて　一五オ9
あま（海人）　〈源氏〉
身のぬれとをりたること伊勢の**あま**にもこえたり　九オ4
あまのしわさにとしふりけるしほかまともの　一七ウ9
あまぎみ（尼君）　〈源氏〉
をこなひなれたる**あまきみ**たちの　一〇ウ4
あまぐも（雨雲）　〈源氏〉
月なき空に**あまくも**さへたちかさなりて　七ウ4
あまた（数）〔副〕　〈源氏〉
ふみとものあまたあるをみれは　一九ウ5
あまり（余）　〈源氏〉
ころは神な月の廿日**あまり**なれは　一五ウ9
あめ（雨）　〈源氏〉
よなかよりふりいてつる**あめ**の…ぬるゝほとになりぬ　八オ9
雨ゆゝしくふりまさりて　八ウ7
涙のあめさへふりそひて　九オ1
あめもおひたゝしく山ちさへまとひて語　九ウ9
日ころふりつる**あめ**のなこりに　一三オ2
涙のしつくはまとうつ**あめ**よりもなり　一五オ6
あめかきくらしふりいてゝ　一六オ10
京に入日しも**あめ**ふりいてゝ　二一オ7

くたりしおりも…**あめ**ふりいてたりしそかし詞　二オ8
日たくるまゝに**あめ**ゆゝしくはれて　二ウ3
かゝる**おほあめ**にふられて詞　九ウ1

あや・し（怪）〔形〕　〈源氏〉
かつうはいと**あやしく**仏の御心の中はつかしけれと　二ウ2
あやしくものくるをしきすかたしたるも　八オ6
あやしくものくるをしきものゝさまかな詞　一〇オ4
…ととはすかたりも**あやしく**て　一三オ5
あやしくはかなけなる所のさまなれは　一三ウ4
あやしくしきもさためぬとふのすかこもに　一三ウ7
こゝもとはいと**あやし**ととかむる人もあれは詞　八ウ2
あやしくとさえつる詞　九ウ3

あやな・く（文無）〔形〕　〈源氏〉
うきをわするゝたよりもやと**あやなく**思ひたちぬ　一五ウ7

あやにく・なり（生憎）〔形動〕　〈源氏〉
さもうちつけに**あやにくなりし**心まよひには　一ウ7
うき人しもと**あやにくなる**こゝちすれは　一三オ4
あやにくにわか心よりおもひたちていてぬれと　一〇ウ8

あやふ・き（危）〔形〕　〈源氏〉
命も**あやうき**ほとなるを　一三ウ11
いといたく**あやうく**ものおそろしかりける　八オ4
みちもいとこほりとちて…**あやうかる**へきを詞　一〇オ2

あゆみよ・り（歩寄）〔四〕　〈源氏〉
たゝあよみに**あゆみより**て…とさえつる　九オ9

あよ・み（歩）　〈発心集・日ポ〉
たゝ**あよみ**にあゆみよりて　九オ9

あらあら・しき（荒々）〔形〕　〈源氏〉
松かせの**あらく**しきをたのもし人にて　九オ5
はしらの**あらく**しきかなつかしからさりつるも　一〇オ11

あらいそ（荒磯）　〈源氏〉
あらいそのなみのをとも　一九オ6

あら・き（荒）〔形〕　〈源氏〉
波**あらき**しほの海路　一八ウ2

あらし（嵐）　〈源氏〉
あらしふけとはおもはさりしを歌　三オ5

あらしのやま（嵐山）　〈新古今〉
あらしの山のふもとにちかつく程　八ウ7

あらそ・ひ（争）〔四〕　〈源氏〉
何事にかゆゝしく**あらそひて**　一七オ7

あ・り（有）〔ラ変〕　〈源氏〉
文かきつくるすゝりのふたもせて**有ける**か　七オ6
うき世ながらかゝるところも**ありけり**詞　一〇ウ3
さても猶うきにたへたるいのちのかきり**ありけれ**は　一四ウ6
をのつからたのむる宵は**ありし**にも**あらす**　一ウ11・11
ありしにかはるけちめもみえぬものから　二オ3
ありしにまさる心地するは　四オ9
ありしなからの心ならましかは詞　四ウ7
有し夢のしるしにや詞　六オ5

おり〳〵にちりくることの葉も**ありし**にこそ　一二ウ6
たゝおもふこと**ありて**詞　九ウ7
たつぬへきこと**ありて**詞　九ウ8
たつねしるたより**ありて**　一〇オ11
こゝ地れいならぬこと**ありて**　一三ウ11
かねてしらぬにしも**あらさり**しかと　一ウ6
こゝろにも**あらす**いそきいつるに　二ウ6
我にも**あらす**おきわかれにし袖の露　四オ2
こゝもみやこには**あらす**　八オ2
これは人をうらむるにも**あらす**詞　九ウ6
うつゝ心も**あらす**あくかれそめにけれは　一一オ5
夢の中なるなけきはかりにも**あらす**　一一オ8
いかにしてたへしのふへくも**あらす**　一三ウ6
かしこも物さはかしくも**あらす**詞　一五ウ3
これもむかしには**あらす**なりぬるにや　一六オ6
かけとまへくも**あらす**　一八ウ8
人見わくへくも**あらす**　二〇ウ2
あらぬすまゐに身をかへたるとおもひなして詞　一五ウ6
なか〳〵にしも**あらぬ**さまなり　一八ウ9
なにゝ心とゝまるへくも**あらぬ**をみやるも　二一ウ11
ものおもふ事のなくさむには**あらね**とも　一オ3
をのつからおもひしつむる時なきにしも**あらね**は　二一オ8
かほしるきすいしんなとまかふへうも**あらね**は　二三オ9
さりとてとゝまるへきにも**あらね**は　一六オ3
さそふ水たに**あらは**と詞　一五オ7
うれへきこえんとにや**あらむ**　二ウ4
いつのとしにか**あらん**　二三オ7
いつくにか**あらん**　一四ウ1
みのかさなときてさえつりくる女**あり**　九オ7
おりしもさきにたちたるくるま**あり**　二三オ6
ひろ〳〵とおひたゝしき河**あり**　一七オ1
一夜はかりのとたえも**あるましき**やうに　一ウ4
いつはりにさへならひはてにけることも**あるにや**　二一ウ8
せかいふらうこと**あるとこ**ろを　一四オ3
ふみともの**あまたある**をみれは　一九ウ5
いとみとこ**ろあれと**　三オ11
みつからきこえあはせたくなと**あれは**　四ウ4
いとあやしとかむる人も**あれは**　八ウ2
つまし**あれは**にや詞　八オ10
またきてなるゝおりもこそ**あれ**詞　二〇ウ5
ありあけ（有明）　〈源氏〉
あり明の光もいと心ほそく　一五ウ10
ありがた・かり（有難）〔形〕　〈源氏〉
仏の御しるへにやとまてうれしく**ありかたかりける**　一〇オ3
ありさま（有様）　〈源氏〉
しきりに身の**ありさま**をたつぬれは　九ウ5
あるいは（或）〔副〕　〈訓点・日ポ〉
あるひは水にたふれいりなとするにも　一七オ8

あるじ（主）
こなたの**あるし**…とて我かたへもかへらすなりぬ　〈源氏〉　六ウ4
あ・れ（荒）〔下二〕
あれたる庭の秋の露　〈源氏〉　一オ6
あれたる庭にくれ竹のたゝすこしうちなひきたる　三オ11
あれまさ・り（荒増）〔四〕
こゝもかしこも猶**あれまさりたる**心ちして　〈源氏〉　三ウ10
あんかもんゐん
安嘉門院四条　一オ2

い

いかが（如何）〔副〕
御かへりも**いかゝ**聞えけん語　〈源氏〉　三ウ2
又なりゆかんはて**いかゝ**　三オ8
いかな・り（如何）〔形動〕
かしこくおもひしつめるこゝろも**いかなりぬる**にか　〈源氏〉　五オ4
れいのまつほとすきぬるは**いかなるにか**と　五オ1
いかなるにか心とゝまらす　一九オ3
いかに（如何）〔副〕
いかにうつり**いかに**そめけるこゝろにか　〈源氏〉　一ウ6・6
いかにおほしまとふらん歌　四オ10
つゐに**いかに**なりはてんとすらん語　四ウ6
かしこくおもひしつめるこゝろも**いかに***なりぬるにか　五オ4
やみなましかは**いかに**せまし語　一〇ウ7
さても**いかに**さすらふる身の行ゑにか語　一六オ1
これやさは**いかに**なるみの浦なれは歌　一八オ3
いかにしてたへしのふへくもあらす　一三ウ5
い・く（生）〔上二〕
きえかへりまた**いく**へ*しとおもひきや歌　一四ウ10
いくへ（幾重）
雲の**いくへ**ともなくおりかさなりて　〈拾遺〉　八ウ8
いける（生）〔連・連体〕
…も**いける**心ちたにせねは　〈源氏〉　二オ1
いざな・へ（誘）〔四〕
…なとなをさりなく**いさなへ**と　〈源氏〉　一五ウ4
いざよひ（十六夜）
いさよひのひかり待いてゝ　〈源氏〉　一四オ6
いしぶみ（碑）
みちのくの**つほのいしふみ**かきたえて歌　〈山家〉　一一ウ11
いせのあま（伊勢海人）
身のぬれとをりたること**伊勢のあま**にもこえたり　〈宇津保〉　九オ4
いそ（磯）
あらいそのなみのをとも　〈源氏〉　一九オ6
いそ・ぎ（急）〔四〕
こゝろにもあらす**いそきいつる**に　〈源氏〉　二ウ6
にはかに**いそきたつ**を　二〇オ1
いそきのほりなんとするは　一九ウ10
いた・く（甚）〔副〕
〈源氏〉

夜も**いたく**更ぬとて人はみなねぬれと語　五ウ4
いと**いたく**あやうくものおそろしかりける山人の　八オ4
いたくまはりはてにけれは　九オ4
いたくもたとらすなりにしや　一ウ2
いと**いたう**かへりみかちにこゝろほそし　一三ウ3
いた・けれ（痛）〔形〕　〈源氏〉
ものさはかしく**かたはらいたけれ**は　一九ウ11
いだ・し（出）〔四〕　〈源氏〉
れいのつまとをしあけてたゝひとり**みいたし**たる　一オ5
…と**見出し**たるけしきもいとおそろしくて　三オ4
いたづらもの（徒者）　〈史記抄・日ポ〉
おきもあかられす**いたつらもの**にてふしたりしを　一〇オ9
いたまし・むる（痛）〔連〕　〈平家・日ポ〉
物ことに心を**いたましむる**つまとなりけれは　一オ7
いつ（何時）　〈源氏〉
この世には**いつかは**おほえん　八ウ3
いつのとしにかあらん　三オ6
いつをかきりに*とおもひかへすそ語　三ウ2
いづく（何処）　〈源氏〉
いつくより**いつく**をさしておはするそ語　九ウ2・2
みやこのなこりも**いつく**をしのふ心にか　一五ウ5
こゝは**いつく〳〵**ともけちかくとふへき人もなけれは　一六ウ6
いつくに野も山もはる〳〵とゆくを　一六ウ7
いつくにかあらんかすかに笛のをとの聞えくる　一四ウ1
いつくにかとたつぬれは語　三ウ4
いつくの*野も山もはる〳〵とゆくを　一六ウ7
いつぞや（何時）〔副〕　〈源氏〉
いつそやつねよりもめとゝまりぬらんかしと語　六ウ2
いつはり（偽）　〈源氏〉
うき世の人のつらき**いつはり**にさへならひはてにける　二ウ7
い・で（出）〔下二〕　〈源氏〉
いてきこえんかたなけれは　三ウ10
すてゝ**いてし**もしのみやまの月ならて歌　二オ2
この川に水の**出たり***し世　三オ7
なにゆへ…この山なかへは**いて給ぬる**そ語　九ウ2
いてつるしやうし口より　七オ5
夜ふかく**いてつれ**と語　九ウ8
みやこ**いてゝ**はるかになりぬれは　一八オ11
夜ふかくみやこを**いてなん**とするに　一五ウ9
たゝ今も**いてぬへき**こゝちして　七ウ2
とくあけて**出ぬる**をとすれは　七ウ11
とゝまるへきにもあらねは**出ぬる**みちすから　一六オ3
わが心よりおもひたちて**いてぬれ**と　二〇ウ9
やをら**おきいてゝ**みるに　五ウ5
→**おもひいで**（五例）
すへりいてぬるも　四オ5・五オ4
かの御文ともを**とりいてゝ**みれは　六オ9
つく〳〵と**ながめいてたる**に　一四オ7

御まへは人のてを**にけいて給**か語　九オ11
　→**ふりいで**（四例）
　→**まちいで**（二例）
はかなきやとり**もとめいてゝ**うつろひなんとす　一三オ3
かとをあけて**いつる**ならひなりけれは　七ウ10
いつるをかきりにとおもひかへすそ語　二ウ2
こゝろにもあらす**いそきいつる**に　二ウ6
さすか**におほしいつる**おりもやと語　五オ11
　→**おもひいづる**（三例）
なく〳〵かとを**ひきいつる**おりしも　一三オ5
こしやむまと**待いつる**ほと　一七オ4
よとゝもに**おもひいつれ**は　二ウ2
やをら**すへり出**れは　六ウ8
いでた・ち（出立）〔四〕　〈源氏〉
この川に水の**出たちし**世　二オ7
いでや〔感〕　〈源氏〉
いてやをのつから…よのなさけをすてぬなけの　一ウ4
いと（甚）〔副〕　〈源氏〉
かつうは**いと**あやしく　二ウ1
こゝもとは**いと**あやしとかむる人もあれは語　八ウ2
たゝひとり行こゝち**いと**いたくあやうくものおそろし　八オ4
いといたうかへりみかちにこゝろほそし　一三ウ3
ほとなく手にさはる**もいと**うれしくて　七オ2
いとうれしくもあはれにもさま〳〵むねしつかならす　一三ウ1
いとうれしけれとにかくにおもひわけにし事なく　二〇オ6
さまかはりて**いと**おかしきさまなれと　一九オ3
いとおさなくよりはくゝみし人　一九ウ6
見出したるけしきも**いと**おそろしくて　二二オ4
おほきなる川**いと**おほし　一七ウ7
紅葉このころそさかりと見えて**いと**おもしろけれは　二ウ8
ちかのしほかまも**いと**かひなき心ちして　一ウ10
くたしはてぬる**はいと**かひなしや　二ウ10
帰て**もいと**くるしけれはうちやすみたるほと　三オ7
御思ひのなこりも**いと**くるしくをしはかり聞ゆれと　四オ11
なをさりにかきすてられたる**もいと**心うくて　二ウ7
なこりも**いと**心ほそくて語　三ウ3
あり明の光も**いと**心ほそく　一五ウ10
みちも**いと**こほりとちて語　二〇オ2
こよひは**いと**さひしく物おそろしきこゝちするに語　六ウ4
雪**いと**しろくて　一九オ11
かひのしらねも**いと**しろく見わたされたり　一九ウ3
風も**いと**すさましき日　五ウ2
いとせめてあくかるゝ心もよほすにや　二オ11
夜のまとひをおもふにも**いと**せめてかなしけれと　二オ10
いとせめてわひはつるなくさみに　一五オ6
うみ**いと**ちかけれは　一八ウ11
いととくおろしまはして　五ウ3
いとゝころ*せうかしかましくおそろしきまて　一七オ2

いとはしたなきこゝちして　五オ5
いとはなれまうきあはらやののきならん　三三オ1
にし山のふもとなれは**いと**はるか成に　八オ8
いと人すくなに心ほそけれと　二〇ウ6
すみつき筆のなかれも**いと**みところあれと　三オ11
ほかにはなる心地して**いと**み所おほかるに　二ウ11
いとものおそろしうくらきに　七ウ4
〈源氏〉
いとど〔副〕
空のけしきは**いと**ゝ袖のいとまなき心ちして　二オ6
うきふるさとは**いと**ゝわすられぬるにや　三オ1
袖の露**いと**ゝかとちかましくて　四オ3
いとゝかきくらす涙のあめさへふりそひて　九オ1
いとゝこゝろせうかしかましくおそろしきまて　一七オ2
いとゝみやこのかたはるかにこそはなりゆくらん　一七オ10
いとゝなみたおちまさりてしのひかたく　一七オ11
〈源氏〉
いとど・しき〔形〕
いとゝ**しき**なみたのもよほしになん　二ウ3
〈源氏〉
いと・は（厭）〔四〕
たひのほとも思ひしられされと**いとはす**に　二〇ウ10
〈源氏〉
いとほ・し〔形〕
あない**とおし**〳〵とくりかへしいふそ　九ウ4・4
いよ〳〵**いとおしかり**て手をひかへてみちひく　一〇オ1
〈源氏〉
いとま（暇）
いとゝ袖の**いとまなき**心ちして　二オ7
〈源氏〉
いのち（命）
たゝいまの**いのち**をかきる心ちして　四オ2
おしからぬ**命**もたゝ今そ心ほそくかなしき　八ウ11
いまとちめはてつる**いのち**なれは　九オ3
露の**いのち**をもかけてけふまてもなからへてけるを　二ウ6
こゝ地れいならぬことありて**命**もあやうきほとなるを　二ウ11
けふかあすかと心ほそき**いのち**なから　一四オ5
をく露の**いのち**まつまのかりのいほに　一四オ10
うきにたへたる**いのち**のかきりありけれは　一四ウ6
露の**いのち**の庭のあさちふ　一四ウ11
〈源氏〉
いは（岩）
かうらんのつまなる**いは**のうへにおりゐて　二ウ9
〈源氏〉
い・ひ（言）〔四〕
いひしにたかふつらさはしも　四オ8
かへりなんとも**いはて**ふしぬ　六ウ7
きた山のふもとゝ**いふ**所なれは　八オ2
思ふにも**いふ**にもたらす　九オ2
くりかへし**いふ**そうれしかりける　九ウ5
あふみのくにのちと**いふ**ところより　一六オ10
みかはのくにやつはしと**いふ**所をみれは　一八オ5
ひえの山なとに侍ると**いふ**をきくに　二一ウ6
なにといふ心にかしたをたひ〳〵ならして　九ウ3
はやかへり給へなと**いへ**は　二ウ6
みち引たまひてんやと**いへ**は　一〇オ1

…と**いへはえに**かなしきことおほかりける　六オ6

いひしら・ぬ（言知）〔連〕　〈源氏〉

たゝ**いひしらぬ**なみたのみむせかへりたる　三ウ11

いぶせさ（鬱悒）　〈源氏〉

日かすふる**いふせさ**をかれ〳〵そおとろかし給つる　四ウ2

いへゐ（家居）　〈源氏〉

すこくをろかなる**いゑゐ**とものなかには　一八ウ5

いほ（庵）　〈古今〉

をく露のいのちまつまのかりの**いほ**に歌　一四オ10

いま（今）　〈源氏〉

いまとちめはてつるいのちなれは　九オ3

いまはかくにこそとおもひなりぬる詞　二オ9

今はとものをおもひなりにしも詞　六オ6

今はとみるはあはれあさからぬなかに詞　六ウ2

いまはとうちやすむほとすへてこゝちもうせて詞　一〇オ8

→**ただいま**（七例）

いまさら（今更）〔副〕　〈平家・日ポ〉

いまさら身のうさもやるかたなく悲しけれは　四ウ9

いまさらに（今更）〔副〕　〈源氏〉

けに**今さらに**とりはものかはとそおもひしられける　二オ2

いまひとたび（今一度）〔副〕　〈源氏〉

いま一たひそれとはかりも見をくりきこゆるは　一三オ11

いみ・じく〔形〕　〈源氏〉

月も**いみしく**あかけれは　五オ5

いよいよ（愈）〔副〕　〈源氏〉

いよ〳〵いとおしかりて　一〇オ1

い・り（入）〔四〕　〈源氏〉

もとのやうに**いりて**ふしぬれと　七ウ8

あしのゆくにまかせてはや山ふかく**入なん**詞　八ウ5

あるひは水に**たふれいり**なとするにも　一七オ8

人はみな何心なく**ね入ぬる**程に　六ウ8

いるあらしの山のふもとにちかつく程　八ウ7

京に**入**日しもあめふりいてゝ　二オ7

やをら**すへりいれ**は　六ウ8

いるかた（入方）　〈源氏〉

いるかたしたふ人の御さまそ詞　五オ8

い・れ（入）〔下二〕　〈源氏〉

このふたに**うちいれて**かきおきつる文なともとりくし　七オ4

なとかくしも**思ひいれけん**詞　一オ11

→**とりいれ**（二例）

いろ　〈源氏〉

つき草のあたなる**色**を　一ウ5

松にかゝれる枝心の**色**もほかにはなる心地して　二ウ10

いろいろに〔副〕　〈源氏〉

木々の紅葉**色々に**見えて　二ウ10

いろづ・き（色付）〔四〕　〈源氏〉

やう〳〵**色つきぬ**　一ウ8

むめかえの**色つきそめし**はしめより　六オ10

う

う・き（浮）〔四〕　〈源氏〉
うきたる身のとかもかうまては思ひしらすそ歌　四ウ8
う・き（憂）〔形〕　〈源氏〉
うきふるさとはいとゝわすられぬるにや　二ウ11
一すちに**うき***もうれしく思ひなりぬ　一〇ウ1
にはもせに**うき**をしらせしあきかせは　一〇ウ9
うきにたへたるいのちのかきりありけれは　一四ウ6
うきをわするゝたよりもや歌　一五ウ7
いとはなれ**まうき**あはらやののきならん歌　三オ1
なをさりにかきすてられたるもいと**心うく**て　三ウ7
あちきなく**ものう***し　三〇オ8
あな**心う**歌　九オ10
うきくさ（浮草）　〈古今〉
身を**うき草**にあくかれし心もこりはてぬるにや　三オ5
うきぐも（浮雲）　〈源氏〉
うきくもまかはすなりなから　五ウ6
うきせ（憂瀬）　〈源氏〉
うきせをわけて中川の水歌　三オ10
うきひと（憂人）　〈源氏〉
うき人しもとあやにくなるこゝちすれは歌　三オ3
うきみ（憂身）　〈源氏〉
秋のかせの**うき身**にしらるゝこゝろそ　一ウ9
うき身をたれはかりかうまてしたはむ歌　三オ3
うきよ（憂世）　〈源氏〉
うき世なからかゝるところもありけり歌　一〇ウ2
うき世の人のつらきいつはりにさへなら*ひはてにける　二ウ7
うきよ*をわけて中川の水歌　三オ10
うき世の夢もをのつから思ひさますたよりなりける　一四オ4
うさ（憂）　〈源氏〉
いまさら身の**うさ**もやるかたなく悲しけれは　四ウ10
うしろ（後）　〈源氏〉
うしろはまつはらにてまへにはおほきなる川のとかに　八ウ10
都を**うしろ**にてこしおりのこゝちには　三〇ウ6
う・せ（失）〔下二〕　〈源氏〉
すへてこゝちも**うせて**露はかりおきもあかられす　一〇オ9
うたたね（転寝）　〈源氏〉
うたゝね
むすふともなき**うたゝね**のゆめ歌　一オ1
うたて・く〔形〕　〈源氏〉
うたてくかなしきものなりけるを　一三ウ11
うち（中）　〈源氏〉
仏の御心の**中**はつかしけれと　一ウ9
こゝろの**うち**ならんかし　二ウ2
かりの世の夢の**中**なるなけきはかりにもあらす　三オ7
恨もなけきもせきやるかたなきむねの**うち**を　二オ8
こゝろの**中**はかりにてくたしはてぬるはいとかひなし　二ウ2

そゝろにくるまの**中**はつかしくはしたなきこゝち…　一三オ10
人しれぬ心の**中**のみさま〳〵くるしくて　一八オ2
かのくにの**中**にもなりぬ　一八ウ1　〈源氏〉

うち（打）〔接頭〕
山ふかく入なんと**うちも**やすまぬまゝに―うちやすみ　八ウ5
一すちに**うちもうれしく**思ひなりぬ　一〇ウ1　〈竹取〉

うちい・れ（打入）〔下二〕
このふたに**うちいれて**かきおきつる文なともとりくし　七オ3
うちお・か（打置）〔四〕　〈源氏〉
人わろき心の程やとまた**うちをかれて**　三ウ5
うちおも・ふ（打思）〔四〕　〈源氏〉
たゝ**うちおもふ**事をかきつくれと　七オ9
うちぐ・し（打具）〔サ変〕　〈源氏〉
みやこのともに**うちくしたる**身ならましかは　一八オ1
うちこわづくろ・ふ（打声作）〔四〕　〈源氏〉
とのゐ人さへ折しも**打こはつくろふ**もむつかしと　七ウ6
うちさは・ぎ（打騒）〔四〕　〈源氏〉
むね**うちさはきて**ひきひろけたれは　三オ8
うちしき・る（打頻）〔四〕　〈源氏〉
打しきる夢の通ひちは一夜はかりのとたえも…　一ウ3
うちすぐ・る（打過）〔上二〕　〈源氏〉
うちすくるかねのひゝきをつく〳〵ときゝふしたるも　一ウ11
うちそ・ひ（打添）〔四〕　〈源氏〉
猶思ひなれにしゆふくれのなかめに**うちそひて**　二オ11

たゝいまはか〳〵しく**うちそふ**人もなくて　二〇オ3
うちたた・く（打叩）〔四〕　〈源氏〉
しのひやかに**うちたゝく**をきゝつけたるには　五オ3
うちつけに（打付）〔副〕　〈源氏〉
さも**うちつけに**あやにくなりし心まよひには　一ウ7
うちつけにものむつかしき心のくせになん　二〇オ10
うちと・け（打解）〔下二〕　〈源氏〉
うちとけて聞えかはしけることのつもりにけるほと　六ウ1
うちなび・き（打靡）〔四〕　〈源氏〉
くれ竹のたゝすこし**うちなひきたる**さへ　二三オ11
うち・ぬる（打寝）〔下二〕　〈源氏〉
宵のまよりせきもりの**うちぬる**程をたに　一ウ2
れいの**うちぬる**ほとの鏡のひゝきに　四ウ4
うちふ・し（打臥）〔四〕　〈源氏〉
たゝひとり**うちふしたれ**とゝけてしもねられす　一三ウ8
うちみ・え（打見）〔下二〕　〈源氏〉
おい人は**うち見えて**こよなくをこたりさまにみゆる　三三オ2
うちみじろ・き（打身動）〔四〕　〈源氏〉
かたはらなる人**うちみしろき**たにせす　七ウ8
うちやす・み（打休）〔四〕　〈源氏〉
帰てもいとくるしけれは**うちやすみたる**ほと　三オ7
いまはと**うちやすむ**ほとすへてこゝちもうせて　一〇オ8
う・つ（打）〔四〕　〈源氏〉
涙のしつくはまと**うつ**あめよりもなり　一五オ6

うづき（卯月）
　うつきにもなりぬ　〈源氏〉　一四オ5
うつつ（現）
　夢**うつつ**ゝともわきかたかりし宵のまより　〈源氏〉　一ウ1
　すへて**うつつ**ゝのことゝもおほえす　八オ6
うつつごころ（現心）
　うつゝ心もあらすあくかれそめにけれは　〈方丈〉　一二オ5
うづまさ（太秦）
　にはかに**うつまさ**にまうてゝんとおもひ立ぬるも　〈枕〉　二オ11
うつ・り（移）〔四〕
　いかに**うつり**いかにそめけるこゝろにか　〈源氏〉　一ウ6
うつろ・ひ（移）〔四〕
　はかなきやとりもとめいてゝ**うつろひなん**とす　〈源氏〉　一三オ3
うとま・しき（疎）〔形〕
　やをらすへりいてぬるもわれなから**うとましき**に　〈源氏〉　五オ5
うへ（上）
　いはの**うへ**におりゐて　〈源氏〉　二ウ9
　うへなき*ものはと思ひけつこゝろのたけそ　〈源氏〉　一九ウ2
うみ（海）
　うみいとちかけれは　〈万葉〉　一八ウ11
　みつうみのをちいたるけちめに　一八ウ2
うみぢ
　波あらきしほの**海路**　〈源氏〉　一八ウ2
うら（浦）
　なるみの**うら**のしほひかた　〈源氏〉　一七ウ8
　これやさはいかになるみの**浦**なれは　一八オ3
　はまなの**うら**そおもしろきところなりける　一八ウ1
うら・み（恨）〔四〕
　ひとかたならぬ**恨**もなけきも　〈源氏〉　一一ウ1
　かの人しれす**うらみきこゆる**人なりけり　一三オ8
　これは人を**うらむる**にもあらす　九ウ6
うらめ・しき（恨）〔形〕
　そゝろに**うらめしき**つまとなるにや　〈源氏〉　一三ウ1
　くれたけの**うらめしからぬ**そのふしもなし　一三ウ3
　我心のみそかへす〳〵**うらめしかりける**　一オ11
うららか・に〔形動〕
　日かすも**うららかにて**とゝこほる所もなかりけるを　〈源氏〉　二〇ウ10
うれ・し（嬉）〔形〕
　有し夢のしるしにやと**うれしかりける**　〈源氏〉　六オ5
　くりかへしいふそ**うれしかりける**　九ウ5
　ほとなく手にさはるもいと**うれしく**て　七オ2
　仏の御しるへにやとまて**うれしく**ありかたかりける　一〇オ3
　一すちにうちも**うれしく**思ひなりぬ　一〇ウ2
　いと**うれしくも**あはれにもさま〳〵むねしつかならす　一三ウ1
　いと**うれしけれと**とにかくにおもひわけにし事なく　二〇オ6
うれ・へ（愁）〔下二〕
　心つからのなやましさも**うれへきこえん**とにやあらむ　〈源氏〉　二ウ4

え

え（枝）〈源氏〉
　むめかえの色つきそめしはしめより　六オ10

え〔副〕〈源氏〉
　行さきも**えしらすし**ぬへき心地さへすれは歌　九ウ10

えだ〈源氏〉
　松にかゝれる**枝**心の色もほかにはなる心地して　二ウ10

えに（得）〔連〕〈伊勢〉
　…と**いへはえに**かなしきことおほかりける　六オ7

お　→を

お（御）〔接頭〕→おん・おまへ

おいびと（老人）〈源氏〉
　おい人はうち見えてこよなくをこたりさまにみゆる　三オ2

お・き（置）〔四〕〈源氏〉
　かきをきつる文なともとりくして**をかん**歌　七オ4・4
　夢のやうに**みをき**し山ちをたゝひとり行こゝち　八オ4
　人わろき心の程やとまた**うちをか**れて　三ウ5
　をく露のいのちまつまのかりのいほに歌　一四オ10
　あしはかりにて**むすひをけ**るへたてともゝ　一八ウ7

お・き（起）〔上二〕〈源氏〉
　露はかり**おき**も**あか**られす　一〇オ9

おきい・で（起出）〔下二〕〈源氏〉
　やをら**おきいてゝ**みるに　五ウ5

おきさわ・げ（起騒）〔四〕〈源氏〉
　人はみな**おきさはけ**と　一五ウ11

おきつしらなみ（沖白波）〈伊勢〉
　ゆめたにゆるせ**おきつしらなみ**歌　一九オ10

おきふし（起臥）〔副〕〈源氏〉
　おきふしなかめわふれと　二オ7

おきわか・れ（起別）〔下二〕〈寝覚〉
　おきわかれにし袖の露いとゝかこちかましくて　四オ3

おく（奥）〈源氏〉
　この**やまのおく**にたつぬへきことありて歌　九ウ8

おく・り（送）〔四〕〈源氏〉
　それとはかり**見をくり**きこゆるは　一三オ11
　雲井はるかに心を**送る**しるへとそなりにける　一〇ウ11

おくりつ・け（送付）〔下二〕〈今昔・日ポ〉
　ほとなく**をくりつけて**かへりぬ　一〇オ3

おこ・せ（遣）〔下二〕〈源氏〉
　とりのあとのやうにかきつゝけて**おこせたる**をみるに一九ウ9

おこた・り（怠）〔四〕〈源氏〉
　ひころの**をこたり**をとりそへて　三オ10
　よひあか月のあか**をこたらす***　一〇ウ5

おこたりざま（怠様）〈源氏〉
　やう〳〵心ちも**をこたりさま**になりたるを　一四ウ7
　こよなく**をこたりさま**にみゆるも　三三オ3

おこなひな・れ（行慣）〔下二〕　〈源氏〉
　をこなひなれたるあまきみたちのよひあか月のあか…一〇ウ4
おさ・へ（押）〔下二〕　〈源氏〉
　心に乱れおつるなみたを**をさへて**　一オ8
おしあ・け（押開）〔下二〕　〈源氏〉
　れいのつまと**をしあけて**　一オ5
おしあけがた（押明方）　〈源氏〉
　をしあけかたならねとうき人しもとあやにくなる…　一三オ3
おしつつ・み（押包）〔四〕　〈源氏〉
　そきおとしたるかみを**おしつゝみたる**みちの国かみの　七オ8
おしはか・り（推量）〔四〕　〈源氏〉
　御思ひのなこりもいとくるしく**をしはかり聞ゆれ**と　四オ11
おそろ・しき（恐）〔形〕　〈源氏〉
　ものむつかしく**おそろしき**事　八ウ3
　かしかましく**おそろしき**までののしりあひたり　一七オ3
ものおそろしき　六ウ4・一七オ9
　…ほとそさすかそゝろ**おそろしかりける**　七オ2
ものおそろしかりける　八オ5・一九ウ3
　見出したるけしきもいと**おそろしく**て　二一オ4
　いと**ものおそろしう**くらきに　七ウ4
　心のおにも**おそろしけれ**は　六ウ7
　人やおとろかんとゆゝしく**おそろしけれ**と　六ウ10
　人にやみつけられんと**そらおそろしけれ**は　七ウ7
おたぎ（愛宕）　〈源氏〉
をたきのちかき所にてはかなきやとりもとめいてゝ　一三オ2
おち・くる（落来）〔カ変〕　〈源氏〉
　まくらのをとに**おちくる**ひゝきには　一九オ7
おちつきどころ（落着所）　〈史記抄〉
　おちつきところのさまをみれは　一八ウ4
おちまさ・り（落増）〔四〕　〈拾遺〉
　いとゝなみた**おちまさりて**しのひかたく　一七オ11
おち・ゐ（落居）〔上一〕　〈源氏〉
　のとかなるみつうみの**をちいたる**けちめに　一八ウ4
お・つる（落）〔上二〕　〈源氏〉
　心に**乱れおつる**なみたををさへて　一オ8
おと（音）　〈源氏〉
　まくらにちかきかねの**をと**も　四オ1
　とくあけて出ぬる**をと**すれは　七ウ11
　よひあか月のあか**をと**たゝす　一〇ウ5
　こゝかしこにせぬれいの**をと**なとをきくにつけても　一〇ウ5
　水のまさるにやつねよりも**をと**するこゝちするにも　一三オ6
　かすかに笛の**をと**の聞えくる　一四ウ1
　よもすからやむともなきゝぬたの**音**　一五オ2
　かせの**をと**もすさましく　一五ウ10
　あらいそのなみの**をと**もまくらの**をと**におちくるひゝきには　一九オ6・6
　をとに聞しせきのし水も　一六オ6
　音にきゝけるよりもおもしろく　一七ウ8

おと・し（落）〔四〕　〈源氏〉
かみを…**そきおとしぬれは**このふたにうちいれて　七オ3
そきおとしたるかみをおしつゝみたる　七オ7
おと・ら（劣）〔四〕　〈源氏〉
かつらのさと人のなさけに**をとらめ**やは　一〇オ6
おどろか・し（驚）〔同〕　〈源氏〉
いふせさをかれ〳〵そ**おとろかし給**つる　四ウ2
…なとはかり**おとろかしきこえ**たるにも　三ウ4
おどろ・き（驚）〔四〕　〈源氏〉
人や**おとろかん**とゆゝしくおそろしけれと　六ウ9
…とみ**おとろく**人おほかるらめなれとも　一〇オ5
おとろへは・つる（衰果）〔下二〕　〈狂言〉
おとろへはつる身もわれかのこゝちのみして　一六ウ10
おな・じ（同）〔形〕　〈源氏〉
こわらはの**おなし**こゑなるとものかたりする也けり　九オ7
同し世ともおほえぬまてにへたゝりはてにけれは　一一ウ8
おなしかやゝともなとさすかにせはからねと　一八ウ6
おなしくは*そのあたりまてみち引たまひてんや　九ウ11
おに（鬼）　〈源氏〉
せめて**心のおに**もおそろしけれは　六ウ7
おのづから（自）　〈源氏〉
をのつからたの*むる宵はありしにもあらす　一ウ10
をのつからおもひしつむる時なきにしもあらねは　二オ7
をのつからこゝろの行たよりもや　二ウ2
をのつからおほかたのよのなさけをすてぬなけの　二ウ4
をのつからことのつゐてに　三ウ4
をのつから思ひさますたよりなりける　一四オ4
おは・し〔サ変〕　〈源氏〉
人の御さまそことたかひて**おはしけれ**と　五オ9
かくてつく〳〵と**おはせん**よりは　一五ウ1
いつくよりいつくをさして**おはする**そ　九ウ2
お・ひ（追）〔四〕　〈源氏〉
さきにたちたるくるまありさきはなやかに**おひて**　一三オ6
おひたた・しき（夥）　〈古事談・日ポ〉
ひろ〳〵と**おひたゝしき**河あり　一七オ1
あめも**おひたゝしく**山ちさへまとひて　九ウ9
おひつづ・き（生続）〔四〕
はる〳〵と**おひつゝきたる**松のこたちなと　一八ウ3
おほあめ（大雨）　〈和泉式部集・日ポ〉
かゝる**おほあめ**にふられて　九ウ1
おぼ・え（覚）〔下二〕　〈源氏〉
これもみやこのかたよりと**おほえて**　九オ6
只いまのやうに**おほえて**　一三オ8
この世にはいつかは**おほえん**　八ウ3
さたかにも**おほえす**なりぬる御おもかけさへ　五ウ10
心さす道もはか〳〵しくも**おほえす**　八オ1
すへてうつゝのことゝも**おほえす**　八オ7
こしかたも**おほえす**行さきもえしらす　九ウ10

同し世ともおほえぬまてにへたゝりはてにけれは　二ウ9
なにゝたとふへしともおほえぬ　一六オ5
…とおほゆるほとに　六ウ3
あなむつかしとおほゆれと　六ウ6
…とおほゆれと　二三ウ10

おほかた（大方）　〈源氏〉
おほかたのよのなさけをすてぬなけのあはれはかりを二ウ4

おほか・り（多）〔ラ変〕　〈源氏〉
はつかしきこともおほかり　五ウ1
…といへはえにかなしきことおほかりける　六オ7
さま〳〵ととむる人もおほかりけれは　二〇オ4
いとみ所おほかるに　二ウ11
…とみおとろく人おほかるらめなれとも　一〇オ5
かきつはたおほかる所ときゝしかとも　一八オ7
ものことになこりおほかる心地するにも　二〇オ9
あめゆゝしくはれてしろき雲おほかる　二ウ4
心ほそきことのみおほかれと　一六オ3
みちのほとめとゝまる所々おほかれと　一六ウ6
山おほかれはいつくにかとたつぬれは　二ウ4

おほき・なる（大）〔形動〕　〈源氏〉
このくにゝなりてはおほきなる川いとおほし　一七ウ7
まへにはおほきなる川のとかになかれたり　一八ウ10

おほ・し（多）〔形〕　〈源氏〉
このくにゝなりてはおほきなる川いとおほし　一七ウ7

おぼしい・づる（思出）〔下二〕　〈源氏〉
さすかにおほしいつるおりもや歟　五オ11

おぼしまど・ふ（思惑）〔四〕　〈源氏〉
いかにおほしまとふらん歟　四オ10

おぼしよ・ら（思寄）〔四〕　〈源氏〉
かくとはおほしよらさらめと　一三オ9

おぼつかな・く（覚束無）〔形〕　〈源氏〉
行すゑをおほつかなく恋しきこともさま〳〵なれと　一七ウ2
たえてほとふるおほつかなさのならはぬ日かすの　二オ8

おまへ（御前）　〈源氏〉
しは〳〵御まへにともなる人々…なといへは　二ウ5
御まへは人のてをにけいて給か歟　九オ10

おもかげ（面影）　〈源氏〉
立よる人の御おもかけはしも　五オ9
さたかにもおほえすなりぬる御おもかけさへ　五ウ10
なかむるかとにおもかけそみし月かけは　一〇ウ10

おもしろ・き（面白）〔形〕　〈源氏〉
はまなのうらそおもしろきところなりける　一八ウ1
音にきゝけるよりもおもしろく　一七ウ8
いとおもしろけれはすきかてにおりぬ　二ウ8

おも・ひ（思）〔四〕　〈源氏〉
よのわつらはしさにおもひなからのみなん歟　二三ウ5
きえかへりまたはくへしとおもひきや歟　一四ウ10
身をもなけてんとおもひけるにや　七ウ2

いかにせましと**おもひづ**[*]**る**にそみもゆるこゝちしける 一〇ウ7
なかき**おもひ**のよもすからやむともなきゝぬたの音 一五オ2
心ほそかりつる**おもひ**にやまひになりて 一九ウ7
とりわきたりける御**思ひ**のなこりも 四オ11
あらしふけとは**おもはさり**しを歌 三オ5
もの**おもふ**事のなくさむにはあらねとも 一オ3
たゝ**うちおもふ**事をかきつくれと 七オ9
…とするは人の**おもふらん**ことゝものさはかしく 一九ウ11
仏なとの見え給つるにやと**おもふ**に 六オ1
はるかにこそはなりゆくらんと**おもふ**には 一七オ11
けにみやもわらやもと**おもふ**には 一八ウ9
思ふにもいふにもたらす 九オ2
なかき夜のまとひを**おもふ**にも 一一オ10
おもふかたにはとをさかるらむ歌 一八オ4
たゝ**おもふ**ことありて詞 九ウ7
思ふ事なくて詞 一七ウ11
人しれすたのみをかくるも**おもへは**あさましく 四ウ5
よしや**おもへは**やすきと詞 六オ4
おもひい・で（思出）〔下二〕 〈源氏〉
おもひいてゝ名をのみしたふみやことり歌 一七ウ5
くたりしおりも…しそかしと**思ひいてゝ** 三オ9
かのひたちのみやの御すまゐ**思ひいてらるゝ**に 五オ7
あなかち**思ひいてられ**て 五オ10
…となけきけんも**思ひ出らるれ**と 一八オ9

こよひそかしと**思ひいつる**にたゝそのおりの心ちして 五ウ9
いかにせましと**おもひいつる**にそみもゆるこゝちし… 一〇ウ7
おもひいつるほとにもなみはさはきけり歌 三オ9
よとゝもに**おもひいつれは**くれたけの歌 三ウ2
おもひい・れ（思入）〔下二〕 〈源氏〉
なとかくしも**思ひいれけん**詞 一オ11
おもひおもひに（思々）〔副〕 〈源氏〉
しほかまとものおもひ**くに**ゆかみたてたるすかた 一七ウ10
おもひか・け（思掛）〔下二〕 〈源氏〉
おもひかけぬたよりにて 三オ2
おもひかへ・す（思返）〔四〕 〈源氏〉
…と**おもひかへす**そまたかきくらす心地しける 三ウ2
おもひく・ち（思朽）〔上二〕 〈続後拾遺〉〈源氏〉（おもひくたす）
ものをのみ**おもひくちにし**はては 二オ4
おもひけ・つ（思消）〔四〕 〈源氏〉
うへなき[*]ものはと**思ひけつ**こゝろのたけそ 一九ウ2
おもひさま・す（思醒）〔四〕 〈源氏〉
うき世の夢もをのつから**思ひさます**たよりなりける 一四オ4
すへて**思ひさまする**ことなきこゝろのうちならんかし 三オ6
おもひしづ・め（思静・思鎮）〔下二〕 〈源氏〉
かしこく**おもひしつめる**（**おもひしつめつる**[*]**・おも**
ひしつむる）こゝろもいかなりぬるにかや 五オ3
をのつから**おもひしつむる**時なきにしもあらねは 二オ7
身をも世をも**おもひしつむれ**と 三オ7

おもひし・ら（思知）〔四〕　〈源氏〉
ふし柴のとたえに**おもひしらさりける**　一ウ8
身のとかもかうまては**思ひしらす**そすきまし　四ウ8
今さらにとりはものかはとそ**おもひしられける**　二オ2
たひのほとも**思ひしられされ**と　三〇ウ10

おもひた・ち（思立）〔四〕　〈源氏〉
あやにくにわか心より**おもひたちて**いてぬれと　三〇ウ8
何とて**思ひたちけん**　一六ウ1
…とあやなく**思ひたちぬ**　一五ウ8
…と**おもひ立ぬる**もかつうはいとあやしく　二ウ1
ことはりに**思ひたちぬる**心のつきぬるそ　六オ4

おもひつづ・け（思続）〔下二〕　〈源氏〉
しゐて**おもひつゝけて**そ　一四オ3
こしかたゆくさきを**思ひつゝくる**に　一オ9
…と**おもひつゝくる**にも　三オ6
…と心ほそく**思ひつゝくる**にも　四ウ7
…なと**思ひつゝくる**に　四ウ9
…と心をやりて**おもひつゝくる**に　五ウ1
よるは夜すからものをのみ**おもひつゝくる**　一九オ6
かく**おもひつゝくれ**と　二一ウ1

おもひな・し（思為）〔四〕　〈源氏〉
身をかへたると**おもひなして**とたにうきをわするゝ…　一五ウ6
おもひなしにや…猶あれまさりたる心ちして　二一ウ9
せきのし水もたえぬなみたとのみ**思ひなされ**て　一六オ7

おもひな・り（思成）〔四〕　〈源氏〉
今はともものを**おもひなりにし**も　六オ6
一すちにうちもうれしく**思ひなりぬ**　一〇ウ2
いまはかくにこそと**おもひなりぬる**よの心ほそさ　二オ9

おもひな・れ（思慣）〔下二〕　〈宇津保・日ポ〉
猶**思ひなれにし**ゆふくれのなかめにうちそひて　二オ11

おもひのほかに（思外）〔副〕　〈源氏〉
みやこ人さへ**おもひのほかに**たつねしるたよりありて　一〇オ10
おもひのほかにさすらふる身のゆくゑを　一一オ6

おもひま・ずる（思交）〔下二〕　〈源氏〉
すへて**思ひまする**ことなきこゝろのうちならんかし　三オ6

おもひみだ・るゝ（思乱）〔下二〕　〈源氏〉
こよひはつれなくてやみなましなと**思ひみたるゝ**に　四ウ11

おもひよ・る（思寄）〔四〕　〈源氏〉
人はこゝまて**おもひやはよる**歟　一四ウ5

おもひわかれ・ぬ（思分）〔連〕　〈源氏〉
君やこしとも**おもひわかれぬ**なかみちに　四オ4

おもひわ・け（思分）〔下二〕　〈源氏〉
とにかくに**おもひわけにし**事なく　三〇オ7

おもひわづら・は（思煩）〔四〕　〈源氏〉
いつくをしのふ心にか心ほそく**思ひわつらはるれ**と　一五ウ5

おもひわ・び（思侘）〔上二〕　〈源氏〉
おもひわひてねのみなかるゝをみる人も心くるしく　三〇オ4

おもふさま・なる（思様）〔形動〕　〈源氏〉

かゝるところもありけりとすこく**おもふさまなる**に　一〇ウ3
おももち（面持）
せきもりのなつかしからぬ**おもゝち**とりにくゝ　三オ3
〈源氏〉
おや（親）
のちのおやとかのたのむへきことはりもあさからぬ…一五オ8
お・り（下）〔上二〕
いとおもしろけれはすきかてに**おりぬ**　二ウ8
〈源氏〉
おり・ゐ（下居）〔上一〕
かうらんのつまなるいはのうへに**おりゐて**　二ウ9
〈源氏〉
河のはたに**おりゐて**つく〳〵とこしかたをみれは　一七オ5
おろか・なる（疎）〔形動〕
こゝかしこにすこく**をろかなる**いゑゐるものなかには一八ウ5
〈源氏〉
おろ・さ（下）〔四〕
まとのしとみたつものも**おろさす**　一四オ7
〈源氏〉
おろしまは・し（下回）〔四〕
風もいとすさましき日いととく**おろしまはして**　五ウ3
〈源氏〉
おん〔接頭〕
かの**御あたり**なりし　一四ウ1
立よる人の**御おもかけ**はしも　五オ9
さたかにもおほえすなりぬる**御おもかけ**さへ　五ウ10
…ととりわきたりける**御思ひ**のなこりも　四オ10
御かへりもいかゝ聞えけん語　三ウ2
仏の**御心**の中はつかしけれと　二ウ2
いるかたしたふ人の**御さま**そことたかひて語　五オ8
仏の**御しるへ**にや語　一〇オ2
かのひたちのみやの**御すまゐ**思ひいてらるゝに　五オ7
御ふみとてとりいれたるも語　三オ8
この**御文**をつく〳〵とみるにも語　三ウ3
かの**御文**ともをとりいてゝみれは　六オ9
→**御まへ**（二例）→おまへ

か

か（日）
〈源氏〉
ほのかにみゆるは**七日**の月なりけり　五ウ8
三日はかりはとにかくにさはりしかとも　一〇オ11
ころは神な月の**廿日**あまりなれは　一五ウ9
〈源氏〉
か〔係助〕
御まへは人のてをにけいて給**か**語　九オ11
けふ**か**あす**か**と語　一四オ5・5
それ**か**とみゆるくさ木もなし　一八オ8
のちのおや**とか**の　一五オ8
→**とかや**（三例）
→**にか**（一三例）
この世には**いつかは**おほえん　八ウ3
われかのこゝちのみして　一六ウ10
〈源氏〉
か〔格助〕
むめ**かえ**　六オ10
よもき**かそま**語　三オ6

すゝりのふたもせて有けるかかたはらにみゆるを　七オ7
より居つるはしらのあら〳〵しきかなつかしからさりつるも　二〇オ11
〔接助〕　〈今昔〉
きたのかた月ころわつらひ給けるかつゐにきえはて…　四オ7
山ちはなを人のこゝちなりけるか…うちやすむほと　一〇オ8
かう（斯）〔副〕　〈源氏〉
身のとかもかうまては思ひしらすそすきまし語　四ウ8
たれはかりかうまてしたはむ語　三オ4
かうらん（高欄）　〈源氏〉
かうらんのつまなるいはのうへにおりゐて　二ウ8
か・か（書）〔四〕　〈源氏〉
松のこたちなと絵にかゝまほしくそみゆる　一八ウ4
かがみやま（鏡山）　〈古今〉
このたひはくもらはくもれかゝみやま歌　二オ10
あめふりいてゝかゝみの山もくもりてみゆるを　三オ7
かか・ら（斯）〔ラ変〕　〈源氏〉
かゝらぬところにてやみなましかはいかにせまし語　一〇ウ6
かか・り（懸）〔四〕　〈源氏〉
みやこのやまにかゝるしらくも歌　二ウ8
松にかゝれる枝心の色もほかにはなる心地して　二ウ10
かかる（斯）〔連体〕　〈源氏〉
なにゆへかゝるおほあめにふられて…いて給ぬるそ語　九ウ1
うき世なからかゝるところもありけり語　一〇ウ3
かゝるわたりをさへへたてはてぬれは　一七オ9
こゝろからかゝるたひねになけくとも歌　一九オ9
かゝるよもきかそまにくちはつへき契こそは語　三三オ6
かきお・き（書置）〔四〕　〈源氏〉
かきをきつる文なともとりくしてをかんとするほと語　七オ4
かきくら・し（搔暗）〔四〕　〈源氏〉
ゆきかきくらして風もいとすさましき日　五ウ2
あめかきくらしふりいてゝ　一六オ10
まつかきくらす涙に月のかけも見えすとて　五ウ11
いとゝかきくらす涙のあめさへふりそひて　九オ1
まつかきくらす涙のみさきにたちて　一六オ4
かきくらす雪まをしはしまつ程そ歌　二オ5
またかきくらす心地しける　二ウ3
かきく・れ（搔暗）〔下二〕　〈源氏〉
かきくれぬれは関屋ちかくたちやすらひたるに　二オ2
かきす・て（書捨）〔下二〕　〈申楽談義・日ポ〉
なをさりにかきすてられたるもいと心うくて　二ウ7
かきた・え（搔絶）〔下二〕　〈源氏〉
みちのくのつほのいしふみかきたえて歌　二ウ11
かきつ・け（書付）〔下二〕　〈源氏〉
文かきつくるすゝりのふたもせて有けるか　七オ6
たゝうちおもふ事をかきつくれと　七オ9
人見わくへくもあらすちいさくかきつくれと　二〇ウ2
かきつづ・け（書続）〔下二〕　〈源氏〉

とりのあとのやうに**かきつゝけて**おこせたるを　一九ウ8
　〈伊勢〉
かきつばた（杜若）
　かきつはたおほかる所ときゝしかとも　一八オ6
かきなが・せ（書流）〔四〕
　〈源氏〉
こゝろの行たよりもやとて人しれす**かきなかせ**と　二ウ3
かきな・さ（書為）〔四〕
　〈源氏〉
こまやかに**かきなされたる**すみつき筆のなかれも　三オ10
かきね（垣根）
　〈源氏〉
はかなけなる**かきね**の草に　一四オ8
かきみだ・す（掻乱）〔四〕　〈寝覚・日ポ〉〈源氏〉
れいのなか〳〵**かきみたす**こゝろまよひに　三ウ1
かぎり（限）
　〈源氏〉
みし夜の**かぎり**もこよひそかし　五ウ8
うきにたへたるいのちの**かぎり**ありけれは　一四ウ6
やまひになりて**かぎり**になりたるよし　一九ウ8
いつるを**かぎり**にとおもひかへすそ　三ウ2
かぎ・る（限）〔四〕
　〈源氏〉
たゝいまのいのちを**かぎる**心ちして　四オ2
かく（斯）〔副〕
　〈源氏〉
かくおもひつゝくれと　三ウ1
なと**かくし**も思ひいれけん　一オ10
かくとたに聞えさせまほしけれと　一三オ4
かくとはおほしよらさらめと　一三オ9
いまは**かくにこそ**　二オ9

→とにかくに（四例）
こゝなから**ともかくも**なりなは　一三オ1
かくて（斯）〔副〕
　〈源氏〉
かくてつく〳〵とおはせんよりは　一五ウ1
かくてしも月のすゑつかたにもなりぬ　一九ウ4
かくてしもなか〳〵にしもあらぬさまなり　一八ウ9
かくてしもやとて又ふるさとにたちかへるにも　一四ウ7
かくても人にやみつけられん　七ウ7
とてもかくてもねのみなきかちなり　一六ウ2
かく・れ（隠）〔下二〕
　〈源氏〉
よひには**雲かくれ**たりつる月の　五ウ6
すいかいのおれのこりたるひまに**たちかくるゝ**も　五オ7
か・け（懸）〔下二〕
　〈源氏〉
露のいのちをも**かけて**けふまてもなからへてけるを　一一ウ6
おもひかけぬたよりにて　一三オ2
人しれすたのみを**かくる**も　四ウ5
かげ（影）
　〈源氏〉
ゆふつく夜の**かけ**ほのかなるに　一三オ3
かへにそむけるともしひの**かけ**はかりを友として　一五オ4
かきくらす涙に月の**かけ**も見えすとて　五ウ11
→おもかげ（三例）・**つきかげ**（三例）
日かけ*もうらかにて　二〇ウ10
かげ（陰）
　〈源氏〉
木の葉の**かけ**につきて夢のやうにみをきし山ちを　八オ3

かけとま・る（掛留）〔四〕
むすひをけるへたてともゝ**かけとまるへく**もあらす　〈源氏かけとまる〉　一八ウ8
かこちがほ・なる（託顔）
あれたる庭の秋の露**かこちかほなる**虫のねも　〈千載〉　一オ6
かこちがま・しく（託―）〔形〕
おきわかれにし袖の露いとゝ**かこちかましく**て　〈堀河百首〉〈源氏かこちがまし〉　四オ3
かさ（笠）
みのかさなときてさえつりくる女あり　〈源氏〉　九オ7
かさな・り（重）〔四〕
月なき空にあまくもさへ**たちかさなり**て　〈源氏〉　七ウ4
雲のいくへともなく**おりかさなり**て　八ウ9
かし〔終助〕
すへて思ひますることなきこゝろのうちならん**かし**　〈源氏〉　三オ7
つねよりもめとゝまりぬらん**かし**語　六ウ3
ゐ中のすまゐもみつゝなくさみ給へ**かし**語　一五ウ2
みし夜のかきりもこよひ**そかし**語　五ウ9
この程にてはあめふりいてたりし**そかし**語　三オ9
かしがま・しく（喜）〔形〕
いとゝころせう**かしかましく**おそろしきまてののしり　〈源氏〉　一七オ2
かしこ（彼処）
かしこも物さはかしくもあらす語　〈源氏〉　一五ウ2
こゝもかしこも猶あれまさりたる心ちして　三ウ10
こゝかしこに　一〇ウ5・一八ウ5
かしこ・く（賢）〔形〕
かしこくおもひしつめるこゝろもいかなりぬるにか　〈源氏〉　五オ3
かず（数）→ひかず（七例）
かずかずに（数々）〔副〕
とふにつらさの**かすくに**なみたをそふる水くきの歐　〈源氏〉　三ウ6
かすかに（幽）〔副〕
いつくにかあらん**かすかに**笛のをとの聞えくる　〈源氏〉　一四ウ1
かずしらず（数不知）〔連〕
何とて思ひたちけんとくやしきこと**かすしらす**　〈源氏〉　一六ウ2
かすみ（霞）
かすみにそれとたに見えすへたゝり行も　〈源氏〉　一六オ11
かぜ（風）
秋の**かせ**のうき身にしらるゝこゝろそ　〈源氏〉　一ウ9
おりしも**風**さへ吹てものさはかしくなりけれは　三オ2
ゆきかきくらして**風**もいとすさましき日　五ウ2
風になひくけふりのすゑも　一九ウ1
かせさへましりてふき行もかきくれぬれは　二オ1
かせのをともすさましく身にしみとをる心ちするに　一五ウ10
ふるさとのにはもせにうきをしらせし**あきかせ**は　一〇ウ9
松かせ　九オ5・一〇ウ10
かた（方）
山の**かた**をみやれは　〈源氏〉　二ウ9
いてきこえん**かた**なけれは　三ウ11
なか〳〵きこえん**かた**なくて　四ウ1
我**かた**へもかへらすなりぬ　六ウ5

山ちにまよひぬるそすへきかたなきや　八ウ11
これもみやこのかたよりとおほえて　九オ6
恨もなけきもせきやるかたなきむねのうちを　一一ウ1
いとゝみやこのかたはるかにこそはなりゆくらん歌　一七オ10
おもふかたにはとをさかるらむ歌　一八オ4
みやこのかたのみ恋しく　一九オ4
みやこのかたよりもともにふみとものあまたあるを　一九ウ5
いるかたしたふ人の御さまそ語　五オ8
をしあけかたならねと歌　一三オ3
おほかたのよのなさけをすてぬなけの　一一ウ4
きたのかた　四オ6
↓こしかた（四例）
すゑつかた　一九ウ4
↓ひとかたならぬ（二例）
やるかたなく悲しけれは　四ウ10
かた（潟）　〈源氏〉
なるみのうらのしほひかた　一七ウ8
かた・き（難）〔接尾〕　〈源氏〉
おり〳〵のあはれしのひかたきふし〳〵を　六オ11
くるしくたへかたきことしぬはかりなり　八ウ6
いとゝなみたおちまさりてしのひかたく　一七オ11
たれはかりにかとめとゝめかたけれは　一三オ7
夢うつゝともわきかたかりし宵のまより　一ウ1
うれしくありかたかりける　一〇オ3

かた・けれ（難）〔形〕　〈源氏〉
又たちかへらん事もかたけれは　二〇オ9
かたはら（傍）　〈源氏〉
かたはらにみゆるを引よせて　七オ7
みちの国かみのかたはらに…かきつくれと　七オ8
かたはらなる人うちみしろきたにせす　七ウ8
かたはらいた・けれ（傍痛）〔形〕　〈源氏〉
ものさはかしくかたはらいたけれは　一九ウ11
かたり（語）　〈源氏〉
とはすかたりもあやしくて　一三オ4
↓ものがたり（三例）
がち（勝）〔接尾〕　〈源氏〉
いといたうかへりみかちにこゝろほそし　一三ウ3
とにかくにさはりかちなるあしわけにて歌　二オ5
いとこほりとちてさはりかちにあやうかるへきを語　二〇オ2
とてもかくてもねのみなきかちなり　一六ウ3
かつうは（且）〔副〕　〈平家・大文典〉〈源氏〉
…とおもひ立ぬるもかつうはいとあやしく　二ウ1
かつら（桂）　〈源氏〉
これやかつらのさとの人ならん語　九オ8
かつらのさと人のなさけにをとらめやは　一〇オ6
がてに（難）〔連〕　〈源氏〉
いとおもしろけれはすきかてにおりぬ　二ウ8
かど（門）　〈源氏〉

夜ふかく**かと**をあけていつるならひなりけれは　七ウ10
なかむる**かと**におもかけそみし月かけは　一〇ウ10
かとちかくほそき川のなかれたる　一三オ5
なく〳〵**かと**をひきいつるおりしも　一三オ5

かな〔終助〕　〈源氏〉
あやしくものくるをしきものゝさま**かな**歌　一〇オ5
はるけきなかとなりにける**かな**歌　一三オ1
ふるさともきてはくやしき旅ころも**かな**歌　一六ウ5

がな〔副助〕　〈今昔・大文典〉
なにをかなとゝめんと見出したるけしきも歌　二一オ3

かな・しき（悲）〔形〕　〈源氏〉
うたてく**かなしき**ものなりけるを　一ウ10
…といへはえに**かなしき**ことおほかりける　六オ7
そことたにしらすまよはんあとそ**かなしき**歌　七ウ1
おしからぬ命もたゝ今そ心ほそく**かなしき**　九オ1
心ほそく**かなしき**ことそなにゝたとふへしとも…　一六オ5
心ほそさそなにゝたとへてもあかす**かなしかりける**　二オ10
かきつゝけておこせたるをみるにあはれに**かなしくて**　一九ウ9
空のけしきも日ころにこえて心ほそく**かなし**　一三ウ7
いまさら身のうさもやるかたなく**悲しけれ**は　四ウ10
なかき夜のまとひをおもふにいとせめて**かなしけれ**と　二一オ10

かなた（彼方）　〈源氏〉
つゐに**こなたかなた**へゆきわかれ給ほと　一三ウ2

かね（鐘）　〈源氏〉
うちすくる**かね**のひゝきをつく〳〵ときゝふしたるも　一ウ11
まくらちかき**かね**のをとも　四オ1
れいのうちぬるほとの**鐘**のひゝきに　四ウ4

かねて（予）〔副〕　〈源氏〉
かねてしらぬにしもあらさりしかと　一ウ5
かねてきゝゐつるよりもあやしくはかなけなるさま…　一三ウ4

かの（彼）〔連体〕　〈源氏〉
かのところにむめきたのかた月ころわつらひ給けるか　四オ6
かのちいさきわらはにや　五オ2
かのひたちのみやの御すまゐ思ひいてらるゝに　五オ7
かの御文ともをとりいてゝみれは　六オ9
さても**かの**ところにし山のふもとなれは　八オ7
かの人しれすうらみきこゆる人なりけり　一三オ8
かのところに行つきたれは　一三ウ3
かの御あたりなりし　一四ウ1
かのくにの中にもなりぬ　一八オ11
まことに**かの**人を…おもひかへすそ　二一ウ1

かは（川・河）　〈源氏〉
かとちかくほそき**川**のなかれたる　一三オ5
この**川**に水の出たちし世　一三オ7
ひろ〳〵とおひたゝしき**河**あり　一七オ1
待いつるほと**河**のはたにおりゐて　一七オ5
おほきなる**川**いとおほし　一七ウ7
まへにはおほきなる**川**のとかになかれたり　一八ウ11

この**河**の水さかさまになかるゝやうにみゆるなと　一九オ2
うきせをわけて**中川**の水歌　二三オ10

かは〔連・係助〕　〈源氏〉
けに今さらにとりは**ものかは**とそおもひしらけれる　二オ2

かは・し（交し）〔四〕　〈源氏〉
うちとけて**聞えかはしける**ことのつもりにけるほと　六ウ1

かはら（川原）　〈源氏〉
すみたかはらならねはことゝふへきみやことりも…　一七ウ3

かは・り（変）〔四〕　〈源氏〉
さま**かはりて**いとおかしきさまなれと　一九オ3
あさまのはしら**かはらす**は歌　二〇ウ4
かはるけちめもみえぬものから　二オ4

かひな・き（効無）〔形〕　〈源氏〉
ちかのしほかまもいと**かひなき**心ちして　一一ウ10
…の中はかりにてくたしはてぬるはいと**かひなしや**　二三ウ11

かひのしらね（甲斐白根）　〈後拾遺〉
かひのしらねもいとしろく見わたされたり　一九ウ3

か・へ（替）〔下二〕　〈源氏〉
あらぬすまゐに身を**かへたる**とおもひなして歌　一五ウ6

かべ（壁）　〈源氏〉
かへにそむけるともしひのかけはかりを友として　一五オ4

かへ・し（返）〔四〕　〈源氏〉
…と**くりかへし**いふそうれしかりける　九ウ4
手ならひのほんこなと**やりかへす**つゐてに　六オ9
いつるをかきりにと**おもひかへす**そ　二ウ2

かへすがへす（返々）〔副〕　〈源氏〉
我心のみそ**かへす〳〵**うらめしかりける　一オ11
すへりいてぬるも**かへす〳〵**夢こゝちなんしける　四オ5

かへ・り（帰・返）〔四〕　〈源氏〉
時雨しぬへしはや**かへり給へ**歌　二ウ6
帰てもいとくるしけれはうちやすみたるほと　三オ7
かへりなんともいはてふしぬ歌　六ウ7
ほとなくをくりつけて**かへりぬ**　一〇オ4
御**かへり**もいかゝ聞えけん歌　三ウ2
きえかへりまたはくへしとおもひきや歌　一四ウ10
たゝいひしらぬなみたのみ**むせかへり**たる　三ウ11
我かたへも**かへらす**なりぬ　六ウ5
かへらんほとをたにしらぬ心もとなさに　一七オ11
又**たちかへら**ん事もかたけれは　二〇オ9
又みやこへ**かへるらむ**歌　二〇オ8
舟をやすめす**さしかへる**ほと　一七オ2
又ふるさとに**たちかへる**にも　一四ウ8

かへり・み（顧）〔上一〕　〈源氏〉
いといたう**かへりみかちに**こゝろほそし　一三ウ3
みやこの山を**かへりみれは**かすみにそれとたに見えす　一六オ11

かほ（顔）　〈源氏〉
かほしるきすいしんなとまかふへうもあらねは　一三オ8
かこちかほなる虫のねも　一オ6

かま（竈）→しほがま（二例）

がま・し〔接尾〕＊　〈源氏〉
いとゝころせう**かしかましく**おそろしきさまでののしり　一七オ2
袖の露いとゝ**かこちかましく**て　四オ3

かみ（髪）　〈源氏〉
かみを引わくるほとそ　七オ2
そきおとしたる**かみ**をおしつゝみたる　七オ8

かみ（紙）　〈源氏〉
みちの国かみのかたはらに…かきつくれと　七オ8

かやや（茅屋）　〈源氏〉
おなし**かやゝ**ともなとさすかにせはからねと　一八ウ6

かよ・ひ（通）〔四〕　〈源氏〉
みねの松かせに**吹かよひ**　一〇ウ10
きみもさはよそのなかめや**かよふらん**歌　三ウ7

かよひぢ（通路）→ゆめのかよひぢ（二例）

から〔接尾〕→づから　〈源氏〉
こゝからかゝるたひねになけくとも歌　一九オ9
所からあはれすくなからす　一四オ8
ありしにかはるけちめもみえぬ**ものから**とにかくに…　二オ4

からうじて（辛）〔副〕　〈源氏〉
からうしてほうりんのまへすきぬれと　八ウ9

からくして（辛）〔副〕　〈土佐〉
からくしてさるへき人みなわたりはてぬれと　一七オ3

が・り〔接尾〕　〈源氏〉
いよ〳〵**いとおしかりて**手をひかへてみちひく　一〇オ2

かりそめ・なれ（仮初）〔形動〕　〈源氏〉
かりそめなれとけにみやもわらやもとおもふには　一八ウ8

かりのいほ（仮庵）　〈堀河百首〉
をく露のいのちまつまの**かりのいほ**に歌　一四オ10

かりのよ（仮世）　〈源氏〉
かりの世の夢の中なるなけきはかりにも　一一オ8

かれ（彼）　〈源氏〉
これかれとさためてのほるへきになりぬ　三〇オ6

か・れ（枯）〔下二〕　〈源氏〉
あたりのくさもみな**かれたる**ころなれはにや　一八オ8

かれがれ（離々）　〈源氏〉
日かすふるいふせさを**かれ〳〵**そおとろかし給つる　四ウ2

かれは・つる（枯果）〔下二〕　〈源氏〉
冬草**かれはつる**まてをり〳〵のあはれ…　六オ10

かんなづき（神無月）　〈源氏〉
神な月にもなりぬ　二オ5
ころは**神な月**の廿日あまりなれは　一五ウ9

き

き（木）　〈源氏〉
それかとみゆる**くさ木**もなし　一八オ8
あさき＊のはしらかはらすは歌　三〇ウ4

き（着）〔上一〕　〈源氏〉

みのかさなと**きて**さえつりくる女あり　九オ7

き（来）〔カ変〕　〈源氏〉

ふるさとも**きて**はくやしき旅ころもかな歌　一六ウ5

また**きて**なるゝおりもこそあれ歌　二〇ウ5

はる〳〵**きぬ**となけきけんも歌　一八オ9

過きつる日かすのほとなさに

ゆきゝの人あつまりて舟をやすめすさしかへるほと　一七ウ1

君や**こし**ともおもひわかれぬなかみちに歌　一七オ1

都をうしろにて**こし**おりのこゝちには　四オ4

　↓**こしかた**（四例）　二〇ウ7

きへかへりまたは**くへし**とおもひきや歌　一四ウ10

みのかさなときて**さえつりくる**女あり　九オ7

おり〳〵に**ちりくる**ことの葉もありしにこそ　一一ウ6

日ころふれと**とひくる**人もなく　一四オ1

かすかに笛のをとの**聞えくる**かの御あたりなりし　一四ウ1

まくらのをとに**おちくる**ひゝきには　一九オ7

ゆきたゝふりに**ふりくる**に　二一オ1

き〔助動〕　〈源氏〉

きえかへりまたはくへしとおもひ**き**や歌　一四ウ10

夢うつゝともわきかたかり**し**宵のまより　一ウ1

あやにくなり**し**心まよひには　一ウ7

をのつからたの*むる宵はあり**し**にもあらす　一ウ11

さすかにたえぬ夢の心ちはあり**し**に　二オ3

おもはさり**し**を歌　三オ4・5

君やこ**し**ともおもひわかれぬなかみちに歌　四オ4

いひ**し**にたかふつらさはしもあり**し**にまさる心地す

るは　四オ9・9

あり**し**なからの心ならましかは話　四ウ7

み**し**夜のかきりもこよひそかし話　五ウ8

有**し**夢のしるしにやとうれしかりける話　六オ5

むめかえの色つきそめ**し**はしめより　六オ10

夢のやうにみをき**し**山ちをたゝひとり行こゝち　八オ4

いたつらものにてふ**し**たり**し**を　一〇オ10

ふるさとのにはもせにうきをしらせ**し**あきかせは　一〇ウ9

なかむるかとにおもかけそみ**し**月かけは　一〇ウ10

すてゝいて**し**もしのみやまの月ならて歌　二オ2

おり〳〵にちりくることの葉もあり**し**にこそ　二ウ6

この川に水の出たち**し**世人しれすなみをわけ**し**事な

　と只いまのやうにおほえて　三オ7・8

かの御あたりなり**し**ねにまよひたるこゝちするにも　一四ウ2

まちなれ**し**ふるさとをたにとはさり**し**歌　一四ウ4・4

をとに聞**し**せきのし水も　一六オ6

いとおさなくよりはくゝみ**し**人　一九ウ6

都をうしろにてこ**し**おりのこゝちには　二〇ウ7

くたり**し**おりもこの程にてはあめふりいてたり**し**そ

　かし話　三一オ8・9

身をうき草にあくかれ**し**心もこりはてぬるにや　三三オ5

↓こしかた（四例）
↓にし（五例）・**にしか**（二例）↓にき
かねてしらぬにしもあらさり**しか**と　一ウ6
三日はかりはとにかくにさはり**しか**とも　一〇ウ1
かきつはたおほかる所とき丶**しか**とも　一八オ7
きえかへ・り（消返）〔四〕　＜源氏＞
きえかえりまたはくへしとおもひきや歌　一四ウ10
きえは・て（消果）〔下二〕　＜源氏＞
月ころわつらひ給けるかつゐに**きえはて給**にけれは　四オ7
きえはてんけふりののちのくもをたに歌　一三ウ8
き・き（聞）〔四〕　＜源氏＞
なるみのうらのしほひかた音に**き丶ける**よりも　一七ウ8
をとに**聞し**せきのし水も　一六オ6
かきつはたおほかる所と**き丶しか**とも　一八オ7
かねて**き丶つる**よりもあやしく　一三ウ4
れいのをとなとを**きく**につけても　一〇ウ5
きくもはるけき道をわけて　一五オ9
ひえの山なとに侍るといふを**きく**に　二一ウ6
きぎ（木々）　＜源氏＞
木々の紅葉色々に見えて　二ウ9
ききつ・け（聞付）〔下二〕　＜源氏＞
しのひやかにうちたゝくを**き丶つけたる**には　五オ3
ききふ・し（聞臥）〔四〕　＜源氏＞
かねのひゝきをつく〳〵と**き丶ふしたる**も　二オ1
きき・ゐ（聞居）〔上一〕　＜源氏＞
打こはつくろふもむつかしと**き丶ゐたる**に　七ウ6
きこ・え（聞）〔下二〕　＜源氏＞
御かへりもいかゝ**聞えけん**　三ウ2
みなとのなみこゝもとに**きこえて**　一九オ1
ことのつゐてになとはかり**おとろかしきこえ**たるにも　二ウ4
あはれしるこゝろのほとなか〳〵**きこえん**かたなくて　四ウ1
心つからのなやましさも**うれへきこえん**とにやあらむ　二ウ4
いてきこえんかたなけれは　三ウ10
人しれす**うらみきこゆる**人なりけり　二オ8
それとはかりも**見をくりきこゆる**は　二ウ1
いとくるしく**をしはかり聞ゆれ**と　四オ11
きこえあは・せ（聞合）〔下二〕　＜源氏＞
あはれさもみつから**きこえあはせたく**なとあれは図　四ウ3
きこえかは・し（聞交）〔四〕　＜源氏＞
うちとけて**聞えかはしける**ことのつもりにけるほとも　六ウ1
きこえ・くる（聞来）〔カ変〕　＜源氏＞
かすかに笛のをとの**聞えくる**かの御あたりなりし　一四ウ1
きこえさ・せ（聞）〔下二〕　＜源氏＞
さるへきつゐてもなくてみつから**きこえさせす**図　二ウ6
かくとたに**聞えさせまほしけれ**と　二オ4
きたのかた（北方）　＜源氏＞
かのところにはむめ**きたのかた**月ころわつらひ給ける　四オ6
きたやま（北山）　＜源氏＞

きた山のふもとゝいふ所なれは　八オ2

きた・る（来）〔四〕　〈訓点・日ポ〉
みやこの物まうてせんとて**のほりきたる**に　一五オ11

きと〔副〕　〈古本説話〉
きとむねふたかる心ちするを　一四ウ2

きぬた（砧）　〈源氏〉
よもすからやむともなき**ゝぬたの音**　一五オ2

きみ（君）　〈源氏〉
君やこしともおもひわかれぬなかみちに歌　四オ3
きみもさはよそのなかめやかよふらん歌　三ウ7
をこなひなれたる**あまきみ**たちの　一〇ウ4

きやう（経）　〈源氏〉
きやうつとてに持たるはかりそたのもしき　一四オ1

きやう
京に入日しもあめふりいてゝ　三オ7

きりぎりす（蟋蟀）　〈源氏〉
ねやちかき**きりくす**のこゑのみたれも*　一五オ3

く

く（来）〔カ変〕→き

くき（茎）→みづくき（二例）

くさ（草）　〈源氏〉
はかなけなるかきねの**草**に　一四オ8
あたりの**くさ**もみなかれたるころなれはにや　一八オ7
身を**うき草**にあくかれし心もこりはてぬるにや　三オ5

つき草のあたなる色を　一ウ5
冬草かれはつるまて　六オ10

くさ（種）　〈源氏〉
朝夕の**こと草**になりぬるを　一五オ7

くさき（草木）　〈源氏〉
それかとみゆる**くさ木**もなし　一八オ8

くさまくら（草枕）　〈古今〉〈源氏くさのまくら〉
はかなしなみしかき夜半の**草まくら**歌　一三ウ10

ぐし（具）〔サ変〕　〈源氏〉
みやこのともに**もうちくしたる**身ならましかは語　一八オ1
かきをきつる文なとも**とりくして**をかんとするほと　七オ4

くせ（癖）　〈源氏〉
うちつけにものむつかしき**心のくせ**になん　三〇オ10

くたしは・て（朽果）〔下二〕　〈源氏〉
こゝろの中はかりにて**くたしはてぬる**はいとかひなし　三ウ10

くだ・り（下）〔四〕　〈源氏〉
くたりしおりもこの程にてはあめふりいてたりし語　三オ8
くたるへき日にもなりぬ　一五ウ8

くち　〈源氏〉
いてつる**しやうし口**より火のひかりの…みゆるに　七オ5

く・ち（朽）〔上二〕　〈源氏〉
ものをのみ**おもひくちにし**はては　二オ4

くちは・つ（朽果）〔下二〕　〈新古今・日ポ〉

かゝるよもきかそまに**くちはつへき**契こそは詞　三オ6
くちろん（口論）
またくちろんなとをし給たりけるにか詞　九オ11
またくちろんとかやをもせす詞　九ウ7
くに（国）
このくにゝなりてはおほきなる川いとおほし　一七ウ7
かのくにの中にもなりぬ　一八オ11
あふみのくにのちといふところより　一六オ10
みかはのくにやつはしといふ所をみれは　一八オ5
おしつゝみたる**みちの国かみ**のかたはらに　七オ8
くも（雲）　〈源氏〉
雲のいくへともなくおりかさなりてゆくさきも見えす　八ウ8
きえはてんけふりののちの**くも**をたに歌　一三ウ8
しろき雲おほかる山おほかれは　一三ウ4
はかなき**くも**さへなつかしくなりぬ　一三ウ6
月なき空に**あまくも**さへたちかさなりて　七ウ4
うきくもまかはすなりなから　五ウ6
みやこのやまにかゝる**しらくも**歌　一三ウ8
くもがく・れ（雲隠）〔下二〕　〈源氏〉
よひには**雲かくれたりつる**月の　五ウ6
くもま　〈源氏〉
たちまふ**雲間**のゆふつく夜のかけほのかなるに　一三オ7
くも・り（曇）〔四〕　〈源氏〉
かゝみの山も**くもりて**みゆるを　一三オ7
このたひは**くもら**は**くもれ**かゝみやま歌　一三オ10・10
くもゐ（雲居）　〈源氏〉
りやうしゆせんの**雲井**はるかに心を送るしるへとそ　一〇ウ11
くや・しき（悔）〔形〕　〈源氏〉
くやしきことかすしらす　一六ウ2
きては**くやしき**旅ころもかな歌　一六ウ5
くら・き（暗）〔形〕　〈源氏〉
いとものおそろしう**くらき**に夜もまたふかきに　七ウ5
くらきより**くらき**にたとらむなかき夜のまとひを二オ9・9
くら・し（暗）〔四〕　〈源氏〉
→**かきくらし**（二例）・**かきくらす**（五例）
くりかへ・し（繰返）〔四〕　〈源氏〉
あないとおし〳〵と**くりかへし**いふそうれしかりける　九ウ4
くる（来）〔カ変〕→き
くる・しき（苦）〔形〕　〈源氏〉
いと**くるしく**をしはかり聞ゆれと　四オ11
くるしくたへかたきことしぬはかりなり　八ウ6
心の中のみさま〳〵**くるしくて**　一八オ2
ねのみなかるゝをみる人も**心くるしく**とて詞　二〇オ5
帰てもいと**くるしけれは**うちやすみたるほと　三オ7
くるほ・しき（狂）〔形〕　→ものくるほしき（二例）
くるま（車）　〈源氏〉
おりしもさきにたちたる**くるま**あり　一三オ6
そゝろに**くるま**の中はつかしく　一三オ10

く・れ（暮）〔下二〕　〈源氏〉

かきくれぬれは関屋ちかくたちやすらひたるに　三オ2

ゆふくれのなかめにうちそひて　二オ11

くれたけ（呉竹）　〈源氏〉

あれたる庭に**くれ竹**のたゝすこしうちなひきたるさへ　三オ11

くれたけのうらめしからぬそのふしもなし歌　三ウ2

くれは・つる（暮果）〔下二〕　〈源氏〉

暮はつる空のけしきも日ころにこえて心ほそくかなし　三ウ6

くれはつるほとにゆきつきたれは　三ウ9

け

げ〔接尾〕　〈源氏〉

あさまし**け**なるしつのをともむつかし**け**なるものと　一七オ6・6

もを

おほかたのよのなさけをすてぬな**け**のあはれはかりを　二ウ5

はかな**け**なる　三ウ5・一四オ7・一八ウ7

けしき（気色）　〈源氏〉

さためなきころの空の**けしき**は　三オ6

暮はつる空の**けしき**も日ころにこえて心ほそくかなし　三ウ6

見出したる**けしき**もいとおそろしくて　三オ4

けぢか・く（気近）〔形〕　〈源氏〉

こゝはいつく〳〵とも**けちかく**とふへき人もなけれは　一六ウ7

けぢめ　〈源氏〉

ありしにかはる**けちめ**もみえぬものから　二オ4

をちいたる**けちめ**にはる〳〵とおひつゝきたる松の　一八ウ3

け・つ（消）〔四〕　〈源氏〉

うへなき*ものはと**思ひけつ**こゝろのたけそ　一九ウ2

げに（実）〔副〕　〈源氏〉

けに今さらにとりはものかはとそおもひしられける　二オ2

けにみやもわらやもとおもふには　一八ウ8

けふ（今日）　〈源氏〉

けふまでもなからへてけるを　二ウ7

けふかあすかと心ほそきいのちなから歌　一四オ5

けふり（煙）　〈源氏〉

きえはてん**けふり**ののちのくもをたに歌　二ウ8

風になひく**けふり**のすゑもゆめのまへにあはれなれ　一九ウ1

け・む〔助動〕　〈源氏〉

なとかくしも思ひいれ**けん**語　一オ11

何とて思ひたち**けん**語　一六ウ2

御かへりもいかゝ聞え**けん**語　三ウ2

たれをよな〳〵恋わたり**けん**歌　二オ3

そゝろにつもり**けむ**とし月のつみも語　一〇ウ6

はる〳〵きぬとなけき**けん**も思ひ出らるれと　一八オ9

け・り〔助動〕　〈源氏〉

かゝるところもあり**けり**語　一〇ウ3

おもひいつるほとにもなみはさはき**けり**歌　三オ9

ほのかにみゆるは七日の月なり**けり**　五ウ8

こわらはのおなしこゑなるとものかたりする也**けり**　九オ8

かの人しれすうらみきこゆる人なり**けり**　一三オ8
すゝりのふたもせて有**ける**かかたはらにみゆるを　七オ7
身をもなけてんとおもひ**ける**にや　七ウ2
音にきゝ**ける**よりもおもしろく　一七ウ8
うちとけて聞えかはし**ける**ことの　六ウ1
かへす〳〵夢こゝちなんし**ける**　四オ6
おもひいつるにそみもゆるこゝちし**ける**　一〇ウ8
おもひかへすそまたかきくらす心地し**ける**　三ウ3
いかにうつりいかにそめ**ける**こゝろにか　一ウ6
月ころわつらひ給**ける**か　四オ7
ふし柴のとたえにおもひしらさり**ける**　一ウ8
とりわきたり**ける**御思ひのなこりも　四オ10
またくちろんなとをし給たり**ける**にか題　九オ11
うたてくかなしきものなり**ける**を　一ウ10
なを人のこゝちなり**ける**か　一〇オ8
てに持たるはかりそたのもしきともなり**ける**　四オ2
うき世の夢もをのつから思ひさますたよりなり**ける**　四オ4
はまなのうらそおもしろきところなり**ける**　一八ウ2
ねぬよのともとならひに**ける**月のひかり　一オ4
とたえもあるましきやうにならひに**ける**を　一ウ4
何となくつもりに**ける**手ならひのほんこなと　六オ8
ことのつもりに**ける**ほとも　六ウ1
心を送るしるへとそなりに**ける**　二オ1
いつはりにさへなひはてに**ける**こともあるにや　二ウ8
はるけきなかとなりに**ける**かな歌　二三オ1
としふりに**ける**しほかまともの　一七ウ10
露のいのちをもかけてけふまてもなからへて**ける**を　二ウ7
今さらにとりはものかはとそおもひしられ**ける**　二オ3
…にやとまてうれしくありかたかり**ける**　一〇オ3
我心のみそかへす〳〵うらめしかり**ける**　一ウ1
心のつきぬるそ有し夢のしるしにやとうれしかり**ける**　六オ6
くりかへしいふそうれしかり**ける**　九ウ5
かみを引わくるほとそさすかそゝろおそしかり**ける**　七オ3
いといたくあやうくものおそろしかり**ける**　八オ5
こゝろのたけそものおそろしかり**ける**　一九ウ3
…といへばえにかなしきことおほかり**ける**　六オ7
心ほそさそなにゝたとへてもあかすかなしかり**ける**　二オ10
とゝこほる所もなかり**ける**を　二〇ウ11
さもあさましくはかなかり**ける**契りの程を題　一オ10
いのちのかきりあり**けれ**は　一四ウ6
…したふ人の御さまそことたかひておはし**けれ**題　五オ9
物ことに心をいたましむるつまとなり**けれ**は　一オ8
風さへ吹てものさはかしくなり**けれ**は　三オ2
夜ふかくかとをあけていつるならひなり**けれ**は　七ウ10
つゐにきえはて給に**けれ**は　四オ7
いたくまはりはてに**けれ**は　九オ5
うつゝ心もあらすあくかれそめに**けれ**は　二オ5
同し世ともおほえぬまてにへたゝりはてに**けれ**は　二ウ9

さま〳〵ととむる人もおほかりけれは　二〇オ4

けん　↓けむ

こ

こ・え（越）〔下二〕　〈源氏〉

身のぬれとをりたること伊勢のあまにも**こえたり**　九オ4

暮はつる空のけしきも日ころに**こえて**心ほそくかなし　一三ウ6

こえわ・ふる（越侘）〔上二〕　〈蜻蛉〉

こえわふるあふさかのやまみつは歌　一六オ8

ここ（此処）　〈源氏〉

こゝとても又たちかへらん事もかたけれは　二〇オ8

こゝなからともかくもなりなは　一三オ1

こゝにふし給へ語　六ウ5

こゝによりゐたる也語　九ウ11

こゝはいつく〳〵語　一六ウ6

人はこゝまておもひやはよる歌　一四ウ5

こゝもみやこにはあらす　八オ1

こゝも**かしこも**猶あれまさりたる心ちして　二一ウ10

ここかしこ（此処彼処）　〈源氏〉

こゝ**かしこに**せぬれいのをとなとをきくにつけても　一〇ウ5

こゝ**かしこに**すこくをろかなるいゑゐとものなかには　一八ウ5

ここもと（此処許）　〈源氏〉

こゝ**もと**はいとあやしととかむる人もあれは　八ウ2

みなとのなみこゝ**もと**にきこえて　一九オ1

ふしの山はたゝこゝ**もと**にとそみゆる　一九オ11

ここち（心地）　〈源氏〉

山ちをたゝひとり行こゝ**ち**…ものおそろしかりける　八オ4

其比こゝ**地**れいならぬことありて　三ウ11

都をうしろにてこしおりのこゝ**ち**には　三〇ウ7

さすかにたえぬ夢の**心ち**はありしにかはるけちめも…　二オ3

すへてこゝ**ち**もうせて　一〇オ9

やう〳〵**心ち**もをこたりさまになりたるを　一四ウ7

山ちはなを人のこゝ**ち**なりけるか　一〇オ8

したはぬこゝ**ち**なれは又なりゆかんはていかゝ　三三オ8

いける**心ち**たにせねは　二オ1

たへしのふへきこゝ**ち**もせす　六オ3

とにかくにさはるへきこゝ**地**もせねは　三〇オ1

いとゝ袖のいとまなき**心ち**して　二オ7

すくれてたのもしき**心ち**して　二ウ3

心の色もほかにはなる**心地**して　二ウ11

たゝいまのいのちをかきる**心ち**して　四オ2

いとはしたなきこゝ**ち**して　五オ6

たゝそのおりの**心ち**して　五ウ9

たゝ今もいてぬへきこゝ**ち**して　七ウ3

…とおもひいつるにそみもゆるこゝ**ち**しける　一〇ウ8

いとかひなき**心ち**して　一一ウ10

はつかしくはしたなきこゝ**ち**しなから　三オ11

またかきくらす**心地**しける　三ウ3

こゝもかしこも猶あれまさりたる**心ちし**て　二ウ10
かへす〳〵**夢のこゝち**なんしける　四オ5
われかの**こゝち**のみして　一六ウ11
つきせす夢の**こゝちする**にも　三ウ10
ありしにまさる**心地する**は　四オ9
さとわかぬひかりにもならひぬへき**こゝちする**は　五オ10
御おもかけさへさしむかひたる**心ちする**に　五ウ11
いとさひしく物おそろしき**こゝちする**に　六ウ5
つねよりもをとする**こゝちする**にも　三オ6
ねにまよひたる**こゝちする**にもきとむねふたかる**心ちする**を　一四ウ2・3
かせのをともすさましく身にしみとをる**心ちする**に　一五ウ11
みなれすめつらしき**心ちする**にも　一七ウ11
ものことになこりおほかる**心地する**にも　二〇オ10
こよなく日かすのすくるもこひしき**こゝちする**そ　二〇ウ8
うき人しもとあやにくなる**こゝちすれ**は　三オ4
行さきもえしらすしぬへき**心地**さへ**すれ**は　九ウ10
〈源氏〉

こころ（心）
いとせめてあくかるゝ**心**もよほすにや　二オ11
秋のかせのうき身にしらるゝ**こゝろ**そうたてく…　一ウ9
ありしなからの**心**ならましかは　四ウ8
心に乱れおつるなみたをさへて　一オ8
いかにうつりいかにそめける**こゝろ**にか　一ウ6
なにといふ**心**にかしたをたひ〳〵ならして　九ウ3
みやこのなこりもいつくをしのふ**心**にか　一五ウ5
ことはりに思ひたちぬる**心**のつきぬるそ　六オ5
をのつから**こゝろ**の行たよりもや　一ウ2
我**心**のみそかへす〳〵うらめしかりける　一オ11
みやこはちかき**心**のみはかりにて　二ウ2
かしこくおもひしつめる**こゝろ**もいかなりぬるにか　五オ4
身をうき草にあくかれし**心**もこりはてぬるにや　三オ5
あやにくにわか**心**より**おもひ**たちていてぬれと　二〇ウ8
物ことに**心**をいたましむるつまとなりけれは　一オ7
…と**心**をやりておもひつゝくるに　五オ11
雲井はるかに**心**を送るしるへとそなりにける　一〇ウ11
うつゝ心もあらすあくかれそめにけれは　二オ5
あくるをまつも**しつ心**なくつきせぬ涙のしつくは…　一五オ5
人はみな**何心**なくね入ぬる程に　六ウ8
こころう・し（心憂）〔形〕　〈源氏〉
これはなに人そあな**心う**　九オ10
なをさりにかきすてられたるもいと**心うく**て　三ウ7
〈源氏〉

こころから
こゝろからかゝるたひねになけくとも　一九オ9
こころぐる・しく（心苦）〔形〕　〈源氏〉
みる人も**心くるしく**とて　二〇オ5
こころざ・す（志）〔四〕　〈源氏〉
さるは**心さす**道もはか〳〵しくもおほえす　八オ1
こころすま・さ（心澄）〔四〕　〈源氏〉

物さはかしくもあらす**心*****すまさん**人はみぬへきさま詞 一五ウ3
こころせ・う（心狭）〔形〕→ところせう
いとゝ**こゝろせう**かしかましくおそろしきまて… 一七オ2
こころづから〔連〕 ＜源氏＞
心つからのなやましさもうれへきこえんとにやあらむ 二ウ4
こころづくし（心盡） ＜源氏＞
心つくしなることのみまされは 六オ3
こころとどま・り（心留）〔四〕 ＜浜松＞
いかなるにか**心とゝまらす**日かすふるまゝに 一九オ4
なにゝ**心とゝまるへく**もあらぬをみやるも 二一ウ11
こころなら・ず〔連〕 ＜源氏＞
心ならすも夢のかよひちたえ果ぬへし 一九オ7
こころにもあら・ず〔連〕 ＜源氏＞
こゝろにもあらすいそきいつるに 二ウ6
こころのいろ ＜後撰＞
松にかゝれる枝**心の色**もほかにはなる心地して 二ウ10
こころのうち（心中） ＜源氏＞
すへて思ひまする**ことなきこゝろのうち**ならんかし 三オ6
こゝろの中はかりにてくたしはてぬるはいとかひなし 二ウ10
人しれぬ**心の中**のみさま〳〵くるしくて 一八オ2
仏の**御心の中**はつかしけれと 二ウ2
こころのおに（心鬼） ＜源氏＞
せめて**心のおに**もおそろしけれは 六ウ6
こころのくせ（心癖） ＜源氏＞
うちつけにものむつかしき**心のくせ**になん 三〇オ10
こころのたけ（心丈） ＜山家＞
思ひけつ**こゝろのたけ**そものおそろしかりける 一九ウ2
こころのほと ＜源氏＞
みなわすられぬるも人わろき**心の程**や詞 三ウ4
あはれしる**こゝろのほと**なか〳〵きこえんかたなくて 四ウ1
こころばかり（心許） ＜古今＞
人しれす**こゝろはかり**にはさてもいかにさすらふる 一六オ1
こころはこころとして〔連〕 ＜源氏＞
いとせめてかなしけれと**心はこゝろとして**猶思ひな
れにしゆふくれのなかめにうちそひて 一一オ10
こころぼそ・き（心細）〔形〕 ＜源氏＞
ともし火の残りて**心ほそき**光なるに 六ウ9
とひくる人もなく**心ほそき**まゝに 一四オ1
けふかあすかと**心ほそき**いのちなから 一四オ5
たゝいまになりては**心ほそき**ことのみおほかれと 一六オ2
心ほそかりつるおもひにやまひになりて 一九ウ7
なこりもいと**心ほそくて**詞 三ウ3
…と**心ほそく**思ひつゝくるにも 四ウ7
おしからぬ命もたゝ今そ**心ほそく**かなしき 八ウ11
日ころにこえて**心ほそく**かなし 一三ウ7
かりのいほに**こゝろほそくも**やとる月かけ歌 一四オ11
いつくをしのふ心にか**心ほそく**思ひわつらはるれと 一五ウ5

あり明の光もいと**心ほそく**　一五ウ10
心ほそくかなしきことそなにゝたとふへしとも…　一六オ4
それとたに見えすへたゝり行もそゝろに**心ほそく**　一六ウ1
たちはなれなんはさすかに**心ほそく**て　二〇ウ1
いといたうかへりみかちに**こゝろほそし**　二三ウ3
このたひはいと人すくなに**心ほそけれ**と　二〇ウ6
よの**心ほそさ**そなにゝたとへてもあかすかなしかり　二七オ10
　　〈浜松〉
こころまよひ（心迷）
さもうちつけにあやにくなりし**心まよひ**には　一ウ7
れいのなか〳〵かきみたす**こゝろまよひ**に　三ウ1
　　〈源氏〉
こころもとなさ（心許無）
かへらんほとをたにしらぬ**心もとなさ**に　一七ウ1
　　〈源氏〉
こし（輿）
人々も**こし**やむまと待いつるほと河のはたにおりゐて　一七オ4
　　〈源氏〉
こしかた（来方）
こしかたゆくさきを思ひつゝくるに　一オ9
こしかた行さきも見えす思ふにもいふにもたらす　九オ2
こしかたもおほえす行さきもえしらす　九ウ9
つく〳〵と**こしかた**をみれは　一七オ5
　　〈源氏〉
こずゑ（梢）
まつならぬ**木すゑ**たにそゝろにはつかしくみまはされ　一四ウ9
ごぜん（御前）
さきはなやかにおひて**こぜん**なとこと〳〵しくみゆる　三オ6
　　〈源氏〉
こそ〔係助〕
いまはかくに、**こそ**とおもひなりぬるよの心ほそさ　二オ9
おり〳〵にちりくることの葉もありしに、**こそ**　一一ウ6
またきてなるゝおりも、**こそ**あれ　二〇ウ5
いとゝみやこのかたはるかに**こそは**なりゆくらん　一七オ10
かゝるよもきかそまにくちはつへき契**こそは**　三三オ6
　　〈源氏〉
こだち（木立）
はる〳〵とおひつゝきたる松の**こたち**なと　一八ウ3
　　〈源氏〉
こと（事）
たゝおもふ**こと**ありて　九ウ7
このやまのおくにたつぬへき**こと**ありて　九ウ8
其比こゝ地れいならぬ**こと**ありて　一三ウ11
すへて思ひする**こと**なきこゝろのうちならんかし　二七オ6
思ふ**事**なくて　一七ウ11
とにかくにおもひわけにし**事**なく　二〇オ7
かなしき**こと**おほかりける　六オ7
ものむつかしくおそろしき**事**この世にはいつかは…　八ウ3
くるしくたへかたき**こと**しぬはかりなり　八ウ6
身のぬれとをりたる**こと**伊勢のあまにもこえたり　九オ4
くやしき**こと**かすしらす　一六ウ2
人しれすなみをわけし**事**なと只いまのやうにおほえて　一三オ8
心ほそくかなしき**こと**、そなにゝたとふへしとも…　一六オ5
人のおもふらん**こと**、ゝものさはかしく　一九ウ11
すへてうつゝの**こと**、ゝもおほえす　八オ7
ものおもふ**事**のなくさむにはあらねとも　一オ3

聞えかはしけることのつもりにけるほとも　六ウ1
心ほそきことのみおほかれと　一六オ2
心つくしなることのみまされは　六オ3
はつかしきこともおほかり　五ウ1
ならひはてにけることもあるにや　一ウ8
おほつかなく恋しきこともさま〳〵なれと　一七ウ3
又たちかへらん事もかたけれは　二〇オ9
たゝうちおもふ事をかきつくれと　七オ9
何事にかゆゝしくあらそひて　一七オ7

ごと（毎）　→ものごとに（二例）

ことぐさ（言種）　〈源氏〉
さそふ水たにあらはと朝夕のこと草になりぬるを　一五オ7

ことごと・しく（事々）〔形〕　〈源氏〉
さきはなやかにおひてこせんなとこと〳〵しくみゆる　一三オ7

ことたが・ひ（事違）〔四〕　〈源氏〉
人の御さまそことたがひておはしけれ　五オ8

ことと・ふ（言問）〔四〕　〈源氏〉
すみたかはらならねはことゝふへきみやことりも…　一七ウ3

こと・なる（異）〔形動〕　〈源氏〉
松にかゝれる枝心の色もほかにはことなる心地して　二ウ10

ことのついで（事序）　〈源氏〉
をのつからことのついてに図　一二ウ4

ことのは（言葉）　〈源氏〉
人しれすちきりしなかのことの葉を歌　三オ4

こゝろまよひにことの葉のつゝきも見えすなりぬれは　三ウ1
おり〳〵にちりくることの葉もありしにこそ　一一ウ6

ことわり（理）　〈源氏〉
またほとふるもことはりなから　四オ8
ことはりに思ひたちぬる心のつきぬるそ　六オ4
たのむへきことはりもあさからぬひとしも　一五オ8

こなた（此方）　〈源氏〉
こなたのあるしこよひは…こゝにふし給へとて　六ウ3
つゐにこなたかなたへゆきわかれ給ほと　一三ウ2

この（此）〔連体〕　〈源氏〉
この御文をつく〳〵とみるにも　三ウ3
そきおとしぬれはこのふたにうちいれて　七オ3
この山なかへはいて給ぬるそ歌　九ウ1
このやまのおくにたつぬへきことありて歌　九ウ7
さてこの所をみるに　一〇ウ2
この川に水の出たちし世　一三オ7
このくにゝなりてはおほきなる川いとおほし　一七ウ7
この河の水かさまになかるゝやうにみゆる　一九オ2

このごろ（此頃）　〈源氏〉
紅葉このころそさかりと見えていとおもしろけれは　二ウ7

このたび（此度）　〈源氏〉
このたひはいと人すくなに心ほそけれと　二〇ウ6
このたひはくもらはくもれかゝみやま歌　二一オ10

このは　〈源氏〉

木の葉のかけにつきて夢のやうにみをきし山ちを　〈源氏〉　八オ3
このほど（此程）
この程にてはあめふりいてたりしそかし 語　三オ8
このよ（此世）　〈源氏〉　八ウ3
おそろしき事**この世**にはいつかはおほえん
こひ・しき（恋）〔形〕　〈源氏〉　一七ウ2
おほつかなく**恋しき**こともさま〳〵なれと　三〇ウ8
日かすのすくるも**こひしき**こゝちするそ　一九オ4
みやこのかたのみ**恋しく**ひるはひめもすになかめ　〈源氏〉　一一オ3
こひわた・り（恋渡）〔四〕
たれをよな〳〵**恋わたりけん** 歌　〈源氏〉　二一オ2
こほりと・ぢ（氷閉）〔上二〕
みちもいと**こほりとちて**さはりかちにあやうかる…語　三〇オ2
こまやか・なり（細）〔形動〕　〈源氏〉　一五オ11
何となく**こまやかなる***物かたりなとするつゐてに　三オ10
こまやかにかきなされたるすみつき筆のなかれも
こも（薦）　↓とふのすがこも
こもり（籠）　↓つゝもり
こよな・く〔形〕　〈源氏〉　二〇ウ7
こよなく日かすのすくるもこひしきこゝちするそ　三オ3
うち見えて**こよなく**をこたりさまにみゆるも
こよひ（今宵）　〈源氏〉　四ウ10
こよひはつれなくてやみなまし 語　五ウ8
みし夜のかきりも**こよひ**そかし 語
こよひはいとさひしく物おそろしきこゝちするに 語　六ウ4
こよひしもとくあけて出ぬるをとすれは　七ウ11
こりは・て（懲果）〔下二〕　〈狭衣〉　三三オ5
身をうき草にあくかれし心も**こりはてぬる**にや
これ（此）　〈源氏〉　九オ6
これもみやこのかたよりとおほえて　九オ8
これやかつらのさとの人ならん 語　九オ10
これはなに人そあな心う 語　九ウ6
これは人をうらむるにもあらす 語　一八オ5
これもむかしにはあらすなりぬるにや　三ウ6
これやさはとふにつらさのかす〳〵に 歌　一八オ3
これやさはいかになるみの浦なれは 歌　〈源氏〉　三〇オ6
これかれ（此彼）
ともとすへきものともなと**これかれ**とさためて　〈源氏〉　二オ6
ころ（頃）　一五ウ9
ふりみふらすみさためなき**ころ**の空のけしきは　八オ8
ころは神な月の廿日あまりなれは　七ウ3
あたりのくさもみなかれたる**ころ**なれはにや　二ウ7
つこもり**比**の月なき空に
ほうこんかう院の紅葉**このころ**そさかりと見えて
↓**そのころ**（二例）　四オ6
むめきたのかた**月ころ**わつらひ給ける**か**
↓**ひごろ**（五例）　〈源氏〉
ころも（衣）

ふるさともきてはくやしき**旅ころも**かな歌　一六ウ5

こわづくろ・ふ（声作）〔四〕　〈古事談〉

とのゐ人さへ折しも**打こはつくろふ**もむつかしと　七ウ6

こわらは（小童）　〈大鏡〉

こわらはのおなしこゑなるとものかたりする也けり　九オ7

こゑ（声）　〈源氏〉

こわはらのおなし**こゑ**なるとものかたりする也けり　九オ8

ねやちかきき り〳〵すの**こゑ**のみたれも*　一五オ3

さ

さ（然）→さは・さも・さらん・さりとて・さるは・さるべき・されば

つれなきよの**あはれさ**もみつからきこえあはせたく文　四ウ3

日かすふる**いふせさ**をかれ〳〵そおとろかし給つる　四ウ2

いまさら身の**うさ**もやるかたなく悲しけれは　四ウ10

たえてほとふる**おほつかなさ**の　二オ8

…とおもひなりぬるよの**心ほそさ**そ　二オ10

かへらんほとをたにしらぬ**心もとなさ**に　一七ウ1

→**つらさ**（三例）

心つからの**なやましさ**も歌　二ウ4

手をひかへてみちひくなさけの**ふかさ**そ　一〇オ2

過きつる日かすの**ほとなさ**に　一七ウ2

よの**わつらはしさ**に文　一三ウ5

さ〔接尾〕　〈源氏〉

さが（嵯峨）　〈源氏〉

ふるさとより**さか**のわたりまては　八オ10

さかさまに（逆）〔副〕　〈源氏〉

この河の水**さかさまに**なかるゝやうにみゆる　一九オ2

さかひ（境）　〈源氏〉

みのをはりの**さかひ**にもなりぬ　一六ウ11

さかり（盛）　〈源氏〉

ほうこんかう院の紅葉このころそ**さかり**と見えて　二ウ7

さか・る（離）　→とほざかる

さき（先）　〈源氏〉

さきにたちたるくるまあり　一三オ5

まつかきくらす涙のみ**さきにたちて**　一六オ4

さきはなやかにおひて　一三オ6

→**ゆくさき**（四例）

さきざき（先々）　〈源氏〉

さき〳〵もとのゐ人の…ならひなりけれは　七ウ9

さ・し（差・指・止）〔四〕　〈源氏〉

いつくよりいつくを**さして**おはするそ歌　九ウ2

しほの**さす**ときはこの河の水さかさまになかるゝ　一九オ1

心さす道もはか〳〵しくもおほえす　八オ1

みさすやうにてたつ程　三オ2

さしかへ・る（差返）〔四〕　〈源氏〉

舟をやすめす**さしかへる**ほといとゝころせう…*　一七オ2

さしむか・ひ（差向）〔四〕　〈源氏〉

御おもかけさへ**さしむかひたる**心ちするに　五ウ10
さ・す〔助動〕→きこえさせ（二例）
さすが（流石）〔副〕　＜平家・日ポ＞
さすかめもあはすみしろきふしたるに　五オ1
さすかそゝろおそろしかりける　七オ2
さすかひたみちにふりはなれなむ　一五ウ4
さすかならはぬひなのなかちにおとろへはつる身も…　一六ウ9
さすがに〔副〕　＜源氏＞
さすかにたえぬ夢の心ちは…けちめもみえぬものから　二オ3
さすかにおほしいつるおりもやと心をやりて　五オ11
おなしかやゝともなと**さすかにせはからねと**　一八ウ6
さすかに心ほそくて人見わくへくもあらす　二〇ウ1
さすら・ふる（流離）〔下二〕　＜源氏＞
おもひのほかに**さすらふる**身のゆくゑを　二オ6
さてもいかに**さすらふる**身の行ゑにか　一六オ1
さそ・ふ（誘）〔四〕　＜源氏＞
さそふ水たにあらはと朝夕のこと草になりぬるを　一五オ7
さだかに（定）〔副〕　＜源氏＞
さたかにもおほえすなりぬる御おもかけさへ　五ウ9
さだ・め（定）〔下二〕　＜源氏＞
これかれと**さためて**のほるへきになりぬ　二〇オ6
しきも**さためぬ**とふのすかこもに…うちふしたれと　一三ウ8
さだめな・き（定無）〔形〕　＜源氏＞
ふりみふらすみ**さためなき**ころの空のけしきは　二オ6
われなから**さためなく**たひのほとも思ひしられされと　二〇ウ9
さて〔接〕　＜源氏＞
さてこの所をみるに　一〇ウ2
さても〔接・感〕　＜源氏＞
さてもかのところにし山のふもとなれは　八オ7
さても猶うきにたへたるいのちのかきりありけれは　一四ウ6
さてもいかにさすらふる身の行ゑにか　一六オ1
さと（里）　＜源氏＞
さとわかぬひかりにもならひぬへきこゝちするは　五オ9
これや**かつらのさと**の人ならん　九オ9
→**ふるさと**（六例）
さとびと（里人）　＜源氏＞
かつらのさと人のなさけにをとらめやは　一〇オ6
さは（然）〔連〕　＜源氏＞
これやさはとふにつらさのかす〳〵に　三ウ6
これやさはいかになるみの浦なれは　一八オ3
きみも**さは**よそのなかめやかよふらん　二ウ7
さは・り（障）〔四〕　＜源氏＞
三日はかりはとにかくに**さはりしか**とも　一〇ウ1
みわたさるゝほとの道なれは**さはりなく**行つきぬ　八オ11
とにかくに**さはるへき**こゝ地もせねは　二〇オ1
さはりがち・なり（障勝）〔形動〕　＜経信集・日ポ＞
とにかくに**さはりかちなる**あしわけにて　二オ4
いとこほりとちて**さはりかちに**あやうかるへきを　二〇オ2

さは・る（触）〔四〕　〈源氏〉
はさみはこのふたなとのほとなく手に**さはる**も　七オ1
さび・しく（寂）〔形〕　〈源氏〉
こよひはいと**さひしく**物おそろしきこゝちする**に**　六ウ4
さへ〔副助〕　〈源氏〉
おりしも風**さへ**吹てものさはかしくなりけれは　三オ2
御おもかけ**さへ**さしむかひたる心ちするに　五ウ10
月なき空にあまくも**さへ**たちかさなりて　七ウ4
とのゐ人**さへ**折しも打こはつくろふも　七ウ6
いとゝかきくらす涙のあめ**さへ**ふりそひて　九オ1
あめもおひたゝしく山ち**さへ**まとひて　九ウ9
行さきもえしらすしぬへき心地**さへ**すれは　九ウ10
みやこ人**さへ**おもひのほかにたつねしるたよりありて　一〇オ10
ゆきたゝふりにふりくるにかせ**さへ**ましりて　三オ1
はかなきくも**さへ**なつかしくなりぬ　三ウ6
くれ竹のたゝすこしうちなひきたる**さへ**…うらめしき　三ウ1
うき世の人のつらきいつはりに**さへ**なひはてにける　一ウ8
かゝるわたりを**さへ**へたてはてぬれは　一七オ9
さへづ・り（囀）〔四〕　〈源氏〉
みのかさなときて**さえつりくる**女あり　九オ7
いつくをさしておはするそあやし〳〵と**さえつる**　九ウ3
さま（様）　〈源氏〉
いるかたしたふ人の御**さま**そことたかひておはしけれ　五オ8
あやしくものくるをしきものゝ**さま**かな　一〇オ5
あやしくはかなけなる所の**さま**なれは　一三ウ5
すまさん人はみぬへき**さま**なる　一五ウ3
おちつきところの**さま**をみれは　一八ウ5
なか〳〵にしもあらぬ**さま**なり　一八ウ10
いとおかしき**さま**なれと　一九オ3
ところ〳〵もりぬれたる**さま**なと　二一ウ11
しきりに身の**ありさま**をたつぬれは　九ウ5
かゝるところもありけりとすこく**おもふさま**なるに　一〇ウ3
→**おこたりざま**（二例）
この河の水**さかさま**になかるゝやうにみゆる　一九オ2
さまかは・り（様変）〔四〕　〈源氏〉
さまかはりていとおかしきさまなれと　一九オ3
さまざま（様々）〔副・形動〕　〈源氏〉
さま〳〵よのためしにもなりぬへく　二一オ5
さま〳〵むねしつかならす　二三ウ1
人しれぬ心の中のみ**さま〳〵**くるしくて　二八オ2
さま〳〵ととむる人もおほかりけれは　三〇オ3
おほつかなく恋しきことも**さま〳〵なれ**と　一七ウ3
さま〳〵にたすけあつかはるゝほと　一〇オ7
さま・す（醒）〔四〕　〈源氏〉
うき世の夢もをのつから**思ひさます**たよりなりける　一四オ4
すへて**思ひさまする***ことなきこゝろのうちならんかし　三オ6
さめ（覚）　→ねざめ
さも（然）〔副〕　〈源氏〉

さもあさましくはかなかりける契りの程を詞　一オ9
さもうちつけにあやにくなりし心まよひには　一ウ7
さら（更）→いまさら・いまさらに
さらむ（然）〔連〕　〈源氏〉
されはさらんとすこしおかしくなりぬ詞　一八オ10
ざ・り〔助動〕→ず　〈源氏〉
かくとはおほしよらさらめと　一三オ10
ふし柴のとたえにおもひしらさりける　一ウ8
あらしふけとはおもはさりしを歌　三オ5
まちなれしふるさとをたにとはさりし歌　一四ウ4
かねてしらぬにしもあらさりしかと　一ウ6
はしらのあら〳〵しきかなつかしからさりつるも　三〇ウ1
われなからさためなくたひのほとも思ひしられされと三〇ウ10
さりとて（然）〔接〕　〈源氏〉
さりとてとゝまるへきにもあらねは　一六オ3
さるは（然）〔接〕　〈源氏〉
さるはつき草のあたなる色をかねてしらぬにしも…　一ウ5
さるは月日にそへてたへしのふへきこゝちもせす　六オ2
さるは心さす道もはか〳〵しくもおほえす　八オ1
さるべき（然）〔連〕　〈源氏〉
さるへきつゐてもなくてみつからきこえさせす文　三ウ6
からくしてさるへき人みなわたりはてぬれと　一七オ3
さればさらん〔連〕　〈源氏〉
されはさらんとすこしおかしくなりぬ詞　一八オ10
さわが・しく（騒）〔形〕　〈源氏〉
おもふらんことゝものさはかしくかたはらいたけれは一九ウ11
→ものさわがしく（二例）
さわ・ぎ（騒）〔四〕　〈源氏〉
おもひいつるほとにもなみはさはきけり歌　二三オ9
むねうちさはきてひきひろけたれは　三オ8
人はみなおきさはけと　一六オ1
さんまい（三味）　〈源氏〉
ほけ三まいのみねの松かせに吹かよひ　一〇ウ9

し

し（為）〔サ変〕　〈源氏〉
かへす〳〵夢こゝちなんしける　四オ6
みもゆるこゝちしける　一〇ウ8
またかきくらす心地しける　二一ウ3
またくちろんなとをし給たりけるにか詞　九オ11
あやしくものくるをしきすかたしたるも　八オ6
ひるよりようしつるはさみはこのふたなとの　七オ1
いとゝ袖のいとまなき心ちして　二オ7
すくれてたのもしき心ちして　二ウ3
心の色もほかにはなる心地して　二ウ11
たゝいまのいのちをかきる心ちして　四オ2
いとはしたなきこゝちして　五オ6
たゝそのおりの心ちして　五ウ9

たゝ今もいてぬへきこゝちして　七ウ3
いとかひなき心ちして　一一ウ10
われかのこゝちのみして　一六ウ11
猶あれまさりたる心ちして　二一ウ10
いかにしてたへしのふへくもあらす　一三ウ5
→からくして・からうじて
→として（二例）
はしたなきこゝちしなから　一三オ11
時雨しぬへしはやかへり給へ　二ウ5
たへしのふへきこゝちもせす　六オ3
うちみしろきたにせす　七ウ9
くちろんとかやをもせす　九ウ7
つきせす夢のこゝちするにも　三ウ10
すゝりのふたもせて有けるかかたはらにみゆるを　七オ6
こゝかしこにせぬれいのをとなとをきくにつけても　一〇ウ5
つきせぬ涙のしつくはまとうつあめよりもなり　一五オ5
いける心ちたにせねは　二オ2
とにかくにさはるへきこゝ地もせねは　二〇オ1
かゝらぬところにてやみなましかはいかにせまし　一〇ウ7
みやこの物まうてせん　一五オ10
はかなきやとりもとめいてゝうつろひなんとす　一三オ4
はては山ちにまとひぬるそすへきかたなきや　八ウ11
宵ねすへきともゝなけれは　一三ウ7
ともすへきものともなとこれかれとさためて　二〇オ5

つゐにいかになりはてんとすらん　四ウ7
さとわかぬひかりにもならひぬへきこゝちするは　一五オ10
人二三人はかりして物かたりなとするに　一五ウ5
かきをきつる文なともとりくしてをかんとするほと　七オ5
夜もやう〳〵ほの〳〵とするほとになりぬれは　八ウ1
こわらはのおなしこゑなるとものかたりする也けり　九オ8
つねよりもをとするこゝちするにも　二三オ6
こまやかなる物かたりなとするつゐてに　一五オ11
夜ふかくみやこをいてなんとするに　一五ウ9
むつかしけなるものともを舟にとりいれなとする程　一七オ7
あるひは水にたふれいりなとするにも　一七オ8
いそきのほりなんとするは　一九ウ10
つきせす夢のこゝちするにも　三ウ10
ありしにまさる心地するは　四オ10
御おもかけさへさしむかひたる心ちするに　五ウ11
いとさひしく物おそろしきこゝちするに　六ウ5
つねよりもをとするこゝちするにも　二三オ6
ねにまよひたるこゝちするにも　四ウ2
きとむねふたかる心ちするを　四ウ3
すさましく身にしみとをる心ちするに　一五ウ11
みなれすめつらしき心ちするにも　一七ウ11
ものことになこりおほかる心地するにも　二〇オ10
こよなく日かすのすくるもこひしきこゝちするそ　二〇ウ8
こよひしもとくあけて出ぬるをとすれは　八オ1

しぬへき心地さへ**すれ**は
あやにくなるこゝち**すれ**は　九ウ11
し〔副助〕→しも　一三オ4
つまし**し**あれはにや歌　〈源氏〉
じ〔助動〕
くもをたによもなかめ**し**な人めもるとて歌　一八オ10
しのはぬ人はあはれともみ**し**歌　〈源氏〉
し・き（敷）〔四〕　三ウ8
あやしく**しき**も**さためぬ**とふのすかこもに　三三オ10
しき・り（頻）〔四〕　〈源氏〉
打**しき**る夢の通ひちは一夜はかりのとたえも…　一三ウ8
しきりに（頻）〔副〕　〈源氏〉
しきりに身のありさまをたつぬれは　一ウ3
しぐれ　〈源氏〉
時雨しぬへしはやかへり給へ語　九ウ5
しげ・から（繁）〔形〕　〈源氏〉
きた山のふもとゝいふ所なれは人め**しけからす**　二ウ5
した（舌）　〈源氏〉
したをたひ〳〵ならして…とくりかへしいふそ　八オ2
したが・は（従）〔四〕　〈源氏〉
したが*はぬこゝちなれは又なりゆかんはていかゝ　九ウ3
した・ひ（慕）〔四〕　〈源氏〉
たれはかりかうまて**したはむ**語　三オ7
したはぬこゝちなれは又なりゆかんはていかゝ　三オ4
いるかた**したふ**人の御さまそことたかひて…語　〈源氏〉
おもひいてゝ名をのみ**したふ**みやことり歌　五オ8
しづか・なら（静）〔形動〕　〈源氏〉
いとうれしくもあはれにもさま〳〵むね**しつかならす**　一七ウ5
しづく（雫）　〈源氏〉
つきせぬ**涙のしつく**はまとうつあめよりもなり　一三ウ2
しづごゝろ（静心）　〈源氏〉
あくるをまつも**しつ心**なく　一五オ5
しづのを（賤男）　〈源氏〉
あさましけなる**しつのを**とも　一五オ5
しづ・め（静・鎮）〔下二〕→おもひしづめ（三例）　一七オ6
して〔連・助〕　〈源氏〉
人二三人はかり**して**物かたりなとするに　五ウ3
→**として**（二例）
しでう
安嘉門院**四条**　一オ2
しとみ（蔀）　〈源氏〉
まとの**しとみたつもの**もおろさす　一四オ6
し・ぬ（死）〔ナ変〕　〈源氏〉
くるしくたへかたきこと**しぬ**はかりなり　八ウ6
行さきもえしらす**しぬへき**心地さへすれは　九ウ10
しの・び（忍）〔四〕　〈源氏〉
しのはぬ人はあはれともみし歌　三オ10
いつくを**しのふ**心にか心ほそく思ひわつらはるれと　一五ウ5

↓たへしのぶ（二例）

しのびがた・き（忍難）〔形〕　〈源氏〉
おり〳〵のあはれ**しのひかたき**ふし〳〵を　六オ11
いとゝなみたおちまさりて**しのひかたく**　一七オ11

しのびやかに（忍）〔副〕　〈源氏〉
しのひやかにうちたゝくをきゝつけたるには　五オ2

しば（柴）　〈源氏〉
ふし柴のとたえにおもひしらさりける歌　一ウ8

しばし（暫）〔副〕　〈源氏〉
かきくらす雪まを**しはし**まつ程そ歌　三オ5
うれへきこえんとにやあらむ**しはし**ば*御まへに　二ウ5

しばしば（屢）〔副〕　〈源氏〉
しはゝ御まへにともなる人々…なといへは　二ウ5

しはす（師走）　〈源氏〉
しはすにもなりぬ　五ウ2

しひて（強）〔副〕　〈源氏〉
せかいふらうことあるところを**しゐて**おもひつゝけて　一四オ3

しほ（潮）　〈源氏〉
波あらき**しほ**の海路　一八ウ2
しほのさすときはこの河の水さかさまになかるゝ　一九オ1

しほがま（塩竈）　〈宇津保〉
ちかのしほかまもいとかひなき心ちして歌　二ウ9
しほかまとものおもひ〳〵にゆかみたてたるすかた…一七ウ10

しほしほと〔副〕　〈源氏〉
しほ〳〵とぬるゝほとになりぬ　八オ9

しほひがた（潮干潟）　〈源氏〉
なるみのうらの**しほひかた**音にきゝけるよりも…　一七ウ8

しみづ（清水）　〈源氏〉
をとに聞し**せきのし水**もたえぬなみたとのみ思ひ…　一六オ6

しみとほ・る（浸透）〔四〕　〈万葉・日ポ〉
かせのをともすさましく身に**しみとをる**心ちするに　一五ウ11

し・むる〔助動〕　〈訓点・大文典〉
物ことに心を**いたましむる**つまとなりけれは　一オ7

しも〔連・副動〕　〈源氏〉
こよひ**しも**とくあけて出ぬるをとすれは　七ウ11
うき人**しも**とあやにくなるこゝちすれは歌　三オ4
ことはりもあさからぬひと**しも**…のほりきたる　一五オ9
京に入日**しも**あめふりいてゝ　三オ7
なと**かくしも**思ひいれけん語　一オ11
たゝひとりうちふしたれとゝけて、**しも**ねられす　一三ウ9
かくて、**しもや**とて又ふるさとにたちかへるにも語　一四ウ7
かくて、**しも**なか〳〵**にしも**あらぬさまなり　一八ウ9・9
かねてしらぬ**にしも**あらさりしかと　一ウ5
今はとものをおもひなり**にしも**といへはえに語　六オ6
をのつからおもひしつむる時なき**にしも**あらねは　一二オ7
いひしにたかふつらさ**はしも**ありしにまさる心地する　四オ9
立よる人の御おもかけ**はしも**さとわかぬひかりにも…　五オ9

↓をりしも（三例）

しもつき（霜月）
かくて**しも月**のすゑつかたにもなりぬ　〈源氏〉　一九ウ4
しやうじ（障子）　〈源氏〉　六ウ10
たゝ**しやうし**ひとへをへたてたる居ところなれは
しやうじぐち（障子口）　〈源氏〉　七オ5
いてつる**しやうし口**より火のひかり…ほのかにみゆる
しらくも（白雲）　〈源氏〉　三一ウ8
みやこのやまにかゝる**しらくも**歌
しら・せ（知）〔下二〕　〈源氏〉　一〇ウ9
にはもせにうきを**しらせし**あきかせは
しらなみ（白波）　〈源氏〉　一九オ10
ゆめたにゆるせ**おきつしらなみ**歌
しらね（白根）　〈後拾遺〉　一九ウ3
かひのしらねもいとしろく見わたされたり
し・り（知）〔四〕　〈源氏〉　七ウ1
そことたに**しらす**まよはんあとそかなしき歌
こしかたもおほえす行さきもえ**しらす**　九ウ10
くやしきことかす**しらす**　一六ウ2
とまりも**しらす**人のゆくにまかせて　一六ウ8
ふし柴のとたえに**おもひしらさり**ける　一ウ8
かうまては**思ひしらす**そすきまし詞　四ウ9
かねて**しらぬ**にしもあらさりしかと　一ウ5
かへらんほとをたに**しらぬ**心もとなさに　一七ウ1
たゝ**いひしらぬ**なみたのみむせかへりたる　三ウ11
秋のかせのうき身に**しらるゝ**こゝろそうたてくかなし　一ウ9
今さらにとりはものかはとそ**おもひしられける**　二オ3
たひのほとも**思ひしられされ**と　二〇ウ10
あはれ**しる**こゝろのほと　四ウ1
おもひのほかに**たつねしる**たよりありて　一〇オ11
→**ひとしれず**（八例）
人しれぬ心の中のみさま〳〵くるしくて　一八オ2
しる・き（著）〔形〕　〈源氏〉　一三オ8
かほ**しるき**すいしんなとまかふへうもあらねは
しるし（徴）　〈源氏〉　六オ5
有し夢の**しるし**にやとうれしかりける詞
しるべ（導）　〈源氏〉　三ウ9
ちきりたかへぬ**しるへ**はかりにて
仏の御**しるへ**にや詞　一〇オ3
雲井はるかに心を送る**しるへ**とそなりにける　一〇ウ11
しろ・き（白）〔形〕　〈源氏〉　三一ウ4
しろき雲おほかる山おほかれは　一九ウ3
かひのしらねもいと**しろく**見わたされたり　一九オ11
雪いと**しろくて**
しわざ（為業）　〈源氏〉　一七ウ9
あまの**しわさ**にとしふりにけるしほかまともの

す

す（為）〔サ変〕→し

ず〔助動〕

いたくもたとらすなりにしや　一ウ3
をのつからたのむる宵はありしにもあらす　一ウ11
ふりみふらすみさためなきころの空のけしきは　二オ6
なにゝたとへてもあかすかなしかりける　二オ10
こゝろにもあらすいそきいつるに　二ウ6
とみにもたゝれす　三オ1
ことの葉のつゝきも見えすなりぬれは　三ウ2
つきせす夢のこゝちするに　三ウ10
我にもあらすおきわかれにし袖の露　四オ2
あさましくよのつねならすあたなる身のゆくゑ　四ウ6
かうまては思ひしらすそすきまし　四ウ9
さすかめもあはすみしろきふしたるに　五オ1
うきくもまかはすなりなから　五ウ7
さたかにもおはえすなりぬる御おもかけさへ　五ウ10
かきくらす涙に月のかけも見えすとて　六オ1
たへしのふへきこゝちもせす　六オ3
我かたへもかへらすなりぬ　六ウ6
外なるともし火のひかりなれは筆のたちとも見えす　七オ10
そことたにしらすまよはんあとそかなしき　七ウ1
うちみしろきたにせす　七ウ9
心さす道もはか〳〵しくもおほえす　八オ1
こゝもみやこにはあらすきた山のふもとゝいふ所…　八オ2
人めしけからす　八オ3

〈源氏〉

すへてうつゝのことゝもおほえす　八オ7
さかのわたりまてはすこしもへたゝらす　八オ11
雲のいくへともなくおりかさなりてゆくさきも見えす　八ウ9
涙のあめさへふりそひてこしかた行さきも見えす　九オ2
思ふにもいふにもたらす　九オ3
これは人をうらむるにもあらすまたくちろんとかや
をもせす　九ウ6・7
山ちさへまとひてこしかたもおほえす行さきもえし
らす　九ウ10・10
露はかりおきもあかられす　一〇オ9
よひあか月のあかをとたゝす　一〇ウ5
うつゝ心もあらすあくかれそめにけれは　一一オ5
かりの世の夢の中なるなけきはかりにもあらす　一一オ9
さるへきつゐてもなくてみつからきこえさせす　一三ウ6
さま〳〵むねしつかならす　一三ウ2
いかにしてたへしのふへくもあらす　一三ウ6
たゝひとりうちふしたれとゝけてしもねられす　一三ウ9
まとのしとみたつものもおろさす　一四オ7
まとかなる月かけに所からあはれすくなからす　一四オ9
かしこも物さはかしくもあらす　一五ウ3
かすみにそれとたに見えす　一六ウ1
くやしきことかすしらす　一六ウ2
とまりもしらす　一六ウ8
舟をやすめすさしかへるほと　一七オ2

みなれすものおそろしきに　一七オ9
ことゝふへきみやことりも見えす　一七ウ4
みなれすめつらしき心ちするにも　一七ウ11
これもむかしにはあらすなりぬるにや　一八オ6
へたてともゝかけとまるへくもあらす　一八ウ8
いかなるにか心とゝまらす　一九オ4
心ならすも夢のかよひちたえ果ぬへし　一九オ7
人見わくへくもあらすちいさくかきつくれと　二〇ウ2
わするなよあさきのはしらかはらすは歌*　二〇ウ4
たひのほとも思ひしられされといとはすに　二〇ウ10
あはれもあさからす　二三オ4
とはすかたりもあやしくて　二三オ4
→ひとしれず（八例）
→ざら・ざり・ざれ　→ざり
→ぬ・ね　→ぬ

すいがい（透垣）　〈源氏〉
すいかいのおれのこりたるひまにたちかくるゝも　五オ6
ずいじん（随身）　〈源氏〉
かほしるきすいしんなとまかふへうもあらねは　一三オ9
すがごも（菅薦）　〈堤中納言・日ポ〉
しきもさためぬとふのすかこもに…うちふしたれと　一三ウ8
すがた（姿）　〈源氏〉
あやしくものくるをしきすかたしたるも　八オ6
おもひ〳〵にゆかみたてたるすかたともみなれす…　一七ウ11

すがら〔接尾〕　〈源氏〉
出ぬるみちすからまつかきくらす涙のみさきにたちて　一六オ4
よるは夜すからものをのみおもひつゝくる　一九オ5
なかきおもひのよもすからやむともなきゝぬたの音　一五オ2
す・ぎ（過）〔四〕　〈源氏〉
いとおもしろけれはすきかてにおりぬ　二ウ8
れいのまつほとすきぬるはいかなるにかと　五オ1
からうしてほうりんのまへすきぬれと　八ウ10
なけきなからはかなくすきて秋にもなりぬ　一五オ1
うきたる身のとかもかうまては思ひしらすそすきまし　四ウ9
こよなく日かすのすくるもこひしきこゝちするそ　二〇ウ7
うちすくるかねのひゝきをつく〳〵ときゝふしたるも　一ウ11
すぎ・き（過来）〔カ変〕　〈更級〉
過きつる日かすのほとなさに　一七ウ1
すくな・し（少）〔形〕　〈源氏〉
月かけに所からあはれすくなからす　一四オ9
いと人すくなに心ほそけれと　二〇ウ6
すぐれて（勝）〔副〕　〈源氏〉
すくれてたのもしき心ちして　二ウ3
すご・く（凄）〔形〕　〈源氏〉
かゝるところもありけりとすこくおもふさまなるに　一〇ウ3
こゝかしこにすこくをろかなるいゑゐとものなかには　一八ウ5
すこし（少）〔副〕　〈源氏〉
くれ竹のたゝすこしうちなひきたるさへ　二三オ11

されはさらんと**すこし**おかしくなりぬ　一八オ10
さかのわたりまては**すこしも**へたゝらすみわたさる　八オ10
すさま・じき〔形〕　〈源氏〉
ゆきかきくらして風もいと**すさましき**日　五ウ2
かせのをとも**すさましく**身にしみとをる心ちするに　一五ウ10
すずり（硯）　〈源氏〉
文かきつくる**すゝり**のふたもせて有けるか　七オ6
すぢ（筋）　→ひとすぢに（二例）
す・て（捨）〔下二〕　〈源氏〉
すてゝいてしもしのみやまの月ならて歌　一一オ2
おほかたのよのなさけを**すてぬ**なけの　一一ウ5
なをさりに**かきすてられたる**もいと心うくて　一三ウ7
はかなくも**みすてられ**て心ほそかりつるおもひにや　一九ウ6
すのまた（洲俣）　〈更級〉
すのまたとかやひろ〳〵とおひたゝしき河あり　一六ウ11
すべて（総）〔副〕　〈源氏〉
すべて思ひまることなきこゝろのうちならんかし　三オ6
すべてうつゝのことゝもおほえす　八オ6
すべてこゝちもうせて露はかりおきもあかられす　一〇オ8
すべりい・で（滑出）〔下二〕　〈源氏〉
すへりいてぬるもかへす〳〵夢こゝちなんしける　四オ5
やをら**すへりいてぬる**もわれなからうとましきに　五オ4
人はみな何心なくね入ぬる程にやをら**すへり出れ***は　六ウ8
すべりい・れ（滑入）〔四〕　〈源氏〉
人はみな何心なくね入ぬる程にやをら**すへりいれ**は　六ウ8
すま・さ（澄）〔四〕　〈源氏〉
物さはかしくもあらす**すまさん**人はみぬへきさま…詞　一五ウ3
すまひ（住）　〈源氏〉
かのひたちのみやの御**すまゐ**思ひいてらるゝに　五オ7
ゐ中の**すまゐ**もみつゝなくさみ給へかし詞　一五ウ1
あらぬ**すまゐ**に身をかへたるとおもひなして詞　一五ウ6
すみだがはら（隅田川原）　〈伊勢〉（すみだがは）
すみたかはらならねはことゝふへきみやことりも…　一七ウ3
すみつき（墨付）　〈源氏〉
こまやかにかきなされたる**すみつき**筆のなかれも　三オ11
すみわ・び（住侘）〔上二〕　〈源氏〉
すみわひてたちわかれぬるふるさとも歌　一六ウ4
すゑ（末）　〈源氏〉
風になひくけふりの**すゑ**もゆめのまへにあはれなれ　一九ウ1
しも月の**すゑつかた**にもなりぬ　一九ウ4
まつならぬ**木すゑ**たにそゝろにはつかしく…　一四ウ9
とまる人々の**行すゑ**をおほつかなく　一七ウ2

せ

せ（瀬）　〈源氏〉
なけきつゝ身をはやき**せ**のそことたに歌　七オ11
うきせをわけて中川の水歌　一三オ10
せ（狭）　〈万葉〉

にはも**せに**うきをしらせしあきかせは　一〇ウ9

せ（為）　→し

せ・う（狭）〔形〕　→ところせう

せかい（世界）　〈源氏〉

せかいふらうことあるところを図　一四オ2

せき（関）　〈源氏〉

ふはのせきになりてゆきたゝふりにふりくるに　三〇ウ11

をとに聞し**せきのし水**もたえぬなみたとのみ思ひ…　一六オ6

せきもり（関守）　〈源氏〉

宵のまより**せきもり**のうちぬる程をたに　一ウ2

せきもりのなつかしからぬおもゝちとりにくゝ　三オ2

やかてとゝむる**ふはのせきもり**歌　三オ6

せきや　〈源氏〉

かきくれぬれは**関屋**ちかくたちやすらひたるに　三オ2

せきや・る（塞遣）　〈多武峰少将〉

恨もなけきも**せきやる**かたなきむねのうちを　二ウ1

せぬれい（振鈴？）

こゝかしこに**せぬれい**のをとなとをきくにつけても　一〇ウ5

せば・から（狭）〔形〕　〈源氏〉

さすかに**せはからねと**はかなけなるあしはかりにて　一八ウ6

せめて　〔副〕　〈源氏〉

せめて心のおにもおそろしけれは　六ウ6

いと**せめて**あくかるゝ心もよほすにや　二オ11

夜のまとひをおもふにもいと**せめて**かなしけれと　二オ10

いと**せめて**わひはつるなくさみに　一五オ6

そ

ぞ〔係助〕　〈源氏〉

うき身にしらるゝこゝろ**そ**うたてくかなしき　一ウ9

よの心ほそさ**そ**なにゝたとへても…かなしかりける　二オ10

ほうこんかう院の紅葉このころ**そ**さかりと見えて　二ウ7

人の御さま**そ**ことたかひておはしけれ歌　五オ8

かみを引わくるほと**そ**さすかそゝろおそろしかりける　七オ2

そことたにしらすまよはんあと**そ**かなしき歌　七ウ1

これはなに人**そ**あな心う歌　九オ10

みちひくなさけのふかさ**そ**…ありかたかりける　一〇オ2

なかむるかとにおもかけ**そ**みし月かけは　一〇ウ10

心ほそくかなしきこと**そ**…たとふへしともおほえぬ　一六オ5

はしもたゝひとつ**そ**みゆる　一八オ6

はまなのうら**そ**おもしろきところなりける　一八ウ1

こゝろのたけ**そ**ものおそろしかりける　一九ウ2

しはしまつ程**そ**やかてとゝむるふはのせきもり歌　二一オ5

おしからぬ命もたゝ今**そ**心ほそくかなしき　八ウ11

日かすふるいふせさをかれ〳〵**そ**おとろかし給つる　四ウ2

いつくよりいつくをさしておはする**そ**あやし〳〵歌　九ウ3

くりかへしいふ**そ**うれしかりける　九ウ5

こよなく日かすのすくるもこひしきこゝちする**そ**　一〇ウ8

おもひかへす**そ**またかきくらす心地しける　一一ウ3

絵にかゝまほしく**そ**みゆる　一八ウ4
身のとかもかうまては思ひしらす、**そ**すきまし 詞　四ウ9
思ひたちぬる心のつきぬ、**そ**…とうれしかりける　六オ5
はては山ちにまよひぬ、**そ**すへきかたなきや　八ウ10
なにゆへ…この山なかへはいて給ぬ、**そ** 詞　九ウ2
しゐておもひつゝけて、**そ**…思ひさますたよりなりける　一四オ3
今さらにとりはものかはと、**そ**おもひしられける　二オ2
雲井はるかに心を送るしるへと、**そ**なりにける　一一オ1
わかれにたえぬなみたと、**そ**みる 歌　一六オ9
ふしの山はたゝこゝもとにと、**そ**みゆる　一九オ11
…とおもひいつるに、**そ**みもゆるこゝちしける　一〇ウ8
我心のみ、**そ**かへす〳〵うらめしかりける　一オ11
つとてに持たるはかり、**そ**たのもしきともなりける　一四オ2
いつそやつねよりもめとゝまりぬらんかしとおほゆる　六ウ2
ぞかし〔連・終助〕　〈源氏〉
みし夜のかきりもこよひ**ぞかし** 詞　五ウ9
…おりもこの程にてはあめふりいてたりし**ぞかし** 詞　三オ9
そぎおと・し（削落）〔四〕　〈寝覚・日ポ〉
そきおとしぬれはこのふたにうちいれて　七オ3
そきおとしたるかみをおしつゝみたるみちの国かみの　七オ7
そこ（底・其処）　〈源氏〉
身をはやきせの**そこ**とたにしらすまよはん 歌　七オ11
そぞろ（漫）　〈源氏（たそがれ）〉
かみを引わくるほとそさすか**そゝろ**おそろしかりける　七オ2
そぞろに（漫）〔副〕　〈十訓抄・日ポ〉
そゝろにつもりけむとし月のつみも 詞　一〇ウ6
…さへ**そゝろに**うらめしきつまとなるにや　二ウ1
そゝろにくるまの中はつかしくはしたなきこゝちし…　一三オ10
そゝろにはつかしくみまはされて　一四ウ9
そゝろに心ほそく　一六ウ1
そゝろにみるもあわれなり　三オ2
そで　〈源氏〉
いとゝ**袖**のいとまなき心ちして　二オ6
おきわかれにし**袖の露**いとゝかこちかましくて　四オ3
その（其）　〈源氏〉
たゝ**その**おりの心ちして　五ウ9
おなしくは*その**の**あたりまてみち引たまひてんや 詞　九ウ11
くれたけのうらめしからぬ**その**ふしもなし 歌　一三ウ3
そのころ（其頃）　〈源氏〉
其比こゝ地れいならぬことありて　二ウ11
そのころのちのおやとかの…とをつあふみとかや　一五オ8
そののち（其後）　〈源氏〉
そのゝちは身をうき草にあくかれし心もこりはて…　三オ4
そのほど（其程）　〈源氏〉
そのほとのまきれにや　四オ7
そのほとを人しれすまつに　七ウ10
そ・ひ（添）〔四〕　〈源氏〉
涙のあめさへ**ふりそひて**こしかた行さきも見えす　九オ1

猶思ひなれにしゆふくれのなかめに**うちそひて**　一二オ11
たゝいまはか〳〵しく**うちそふ**人もなくて 詞　三〇オ3

そ・へ（添）〔下二〕　〈源氏〉
さるは月日に**そへて**たへしのふへきこゝちもせす　六オ2
空のあはれにひころのをこたりを**とりそへて**　三オ10
なみたを**そふる**水くきのあと 歌　三ウ7

そま（袖）　〈曽丹集・日ポ〉
かゝる**よもきかそま**にくちはつへき契こそは 詞　三三オ6

そむ・け（背）〔四〕　〈源氏〉
かへに**そむける**ともしひのかけはかりを友として　一五オ4

そ・め（染）〔下二〕　〈源氏〉
いかにうつりいかに**そめける**こゝろにか　一ウ6

そ・め（初）〔下二〕　〈源氏〉
むめかえの**色つきそめし**はしめより　六オ10
うつゝ心もあらす**あくかれそめにけれ**は　一二オ5

そら（空）　〈源氏〉
れいの人しれすなかみちちかき**そら**にたに　三ウ8
つこもり比の月なき**空**にあまくもさへたちかさなりて　七ウ4
たゝいまの**空のあはれ**にひころのをこたりをとりそへ　三オ9
ふりみふらすみさためなきころの**空のけしき**は　二オ6
暮はつる**空のけしき**も日ころにこえて心ほそくかなし　三ウ6

そらおそろ・し（空恐）〔形〕　〈源氏〉
かくても人にやみつけられんと**そらおそろしけれ**は　七ウ7

それ（其）　〈源氏〉
それとはかりも見をくりきこゆるはいとうれしくも　一三オ11
かすみに**それとたに**見えすへたゝり行も　一六オ11
それかとみゆるくさ木もなし　一八オ8

た

た・え（絶）〔下二〕　〈源氏〉
たえてほとふるおほつかなさの　二オ8
みちのくのつほのいしふみ**かきたえて** 歌　二ウ11
さすかに**たえぬ**夢の心ちは…　二オ3
せきのし水も**たえぬ**なみたとのみ思ひなされて　一六オ7
わかれに**たえぬ**なみたとそみる 歌　一六オ9
よひあか月のあかをと**たえす***　一〇ウ5
→**とだえ**（二例）

たえは・て（絶果）〔下二〕　〈源氏〉
心ならすも夢のかよひち**たえ果ぬへし**　一九オ7

たかね（高嶺）　〈万葉・日ポ〉
ひらのたかねやひえの山なとに侍る 詞　三ウ5

たが・ひ（違）〔四〕　〈源氏〉
人の御さまそ**ことたかひて**おはしけれ 詞　五オ8
いひしに**たかふ**つらさはしも　四オ9

たが・へ（違）〔下二〕　〈源氏〉
ちきり**たかへぬ**しるへはかりにて　三ウ9

た・くる（闌）〔下二〕　〈源氏〉
日たくるまゝにあめゆゝしく**はれて**　三ウ3